

OH! ICHINOMIYA

杜・街・人がおりなす
驚きと発見が生まれる次の100年へ

一宮まちなか未来ビジョン

一宮まちなか未来会議

2024年 5月

目次

1 はじめに	<ul style="list-style-type: none">● 一宮まちなか未来ビジョン市民提案の目的と趣旨● 一宮まちなか未来ビジョン市民提案の検討プロセス● 一宮まちなか未来会議	1
2 まちなかの現状	<ul style="list-style-type: none">● まちなかの現状● まちなかの強みと弱み● 社会実験で得た手ごたえ	10
3 まちなかの未来	<ul style="list-style-type: none">● まちなかの未来に向けた思い● 未来のまちなかの合言葉（キャッチフレーズ）● 未来のまちなかのイメージ	26
4 取り組みの提案	<ul style="list-style-type: none">● 取り組みの基本的な考え方● 具体的な取り組みのアイデア	32
5 エリア別ビジョン	<ul style="list-style-type: none">● 本町通りエリアビジョン2024● 銀座通りエリアビジョン2024	42
6 実現に向けて	<ul style="list-style-type: none">● 取り組み体制と役割分担● 取り組みの進め方（ロードマップ）	54

1
はじめに

- 一宮まちなか未来ビジョン市民提案の目的と趣旨
- 一宮まちなか未来ビジョン市民提案の検討プロセス
- 一宮まちなか未来会議

一宮まちなか未来ビジョン市民提案の目的と趣旨

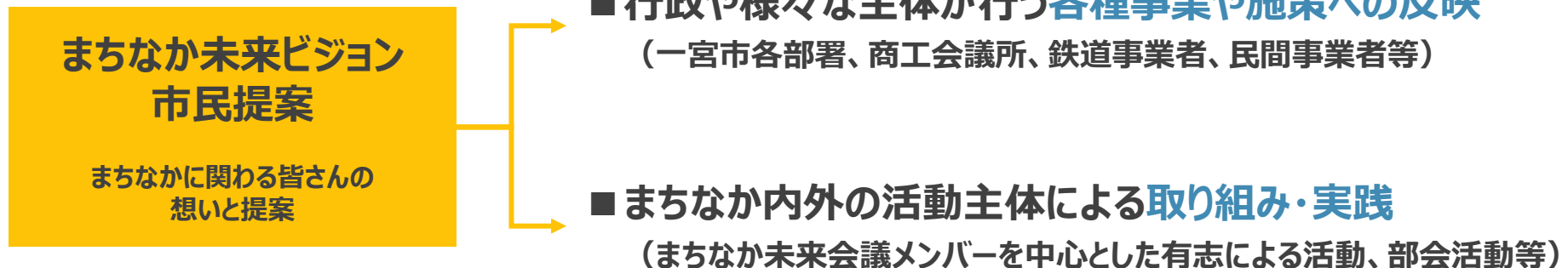
まちなか未来ビジョン提案の背景

- これまでも行政や様々な団体がまちなかの活性化に取り組んできたが、あまり連携が取れていませんでした。
- 一宮市民や市内で活動する団体にとって、まちなかの未来に興味や思い入れがある方々は多くありません。
- 歴史が積み重なり、交通利便性が高いまちなかを、もっと市全体で活用することが重要です。

まちなか未来ビジョン提案の目的

- ①まちなかに関わる様々な主体が、まちなかの望ましい未来を議論し、共有し、連携すること
- ②まちなかのこれからの変化や期待を市内外の多くの方に知ってもらい、興味を持ち、関わってもらうこと
- ③まちなかの取り組みと変化を記録し、新たな展開に柔軟に対応しながらその活動を発信すること

未来ビジョンの役割



一宮まちなか未来ビジョン市民提案の検討プロセス

- 2021年度から2か年にかけて、社会実験とワークショップによる話し合いを重ね、提案内容を議論してきました。

2021年度

1 11月	社会実験によるきっかけづくり まちなかウォークブル社会実験2021	公共空間活用を中心とした社会実験を契機として、市内の様々な活動団体を巻き込み、まちなかに関わるきっかけを作りました
2 12-2月	まちなかのポテンシャルと課題を探る 未来デザインワークショップ（第1回～第2回）	社会実験をきっかけとして、まちなかが抱える課題や寄せる期待をワークショップで話し合い、未来のまちなかのイメージを描きました

2022年度

3 6月	まちなかを変えるためのチーム結成 一宮まちなか未来会議設立総会	2021年度の活動や参加者を核として、これからまちなかの変化に向けて動き出す官民連携のエリアプラットフォームを設立しました
4 7-9月	具体的アクションを学びながら考える 未来デザインワークショップ（第3回～第5回）	第3回で近隣都市の実践者からまちづくりのポイントを学び、第4回・第5回で具体的なアクションのアイデアを話し合いました
5 9-10月	アクションを試し動かし検証する まちなかウォークブル社会実験2022	前回の社会実験やこれまでの議論を踏まえ、改めて社会実験で様々な取り組みを展開し、課題や取り組みの効果を検証しました
6 12月-	出来ることから考え動き出す 一宮まちなか未来会議部会活動の開始	公共空間・地域資源活用・情報発信の3部会に分かれ、自分たちでできるアクションに向けて部会活動を開始しています

2023年度

7 7-12月	まちなかで学ぶ／チャレンジを日常化へ 一宮まちなか未来を紡ぐ場TUMUGUBAをスタート	市民が主体となって学び、語り合い、広める場を設け、様々な人を巻き込みます。また、まちなかウォークブル社会実験2023を実施、日常化への試み。
8 12-2月	様々な意見交換の場を設ける 一宮まちなか未来会議部会活動の開始	場所の特性を踏まえてエリア別に意見交換の場を設けました。一方で、幅広い市民と共にまちなかを考えるシンポジウムを開催して市民の関心を高めます。

一宮まちなか未来ビジョン市民提案の検討プロセス

2021年度

1

11月

社会実験によるきっかけづくり まちなかウォークブル社会実験2021

- 10月22日～24日を皮切りに、まちなかウォークブル社会実験「ストリートチャレンジ」を開催しました。
- 公共空間の自由な活用とベンチの設置により、まちなかのポテンシャルと可能性を検証しました。



まちなかウォークブル社会実験
ストリートチャレンジ
2021 10.22金-11.12金
Ichinomiya Street Challenge



2022年度

3

6月

4

7-9月

5

9-10月

6

12月-

2023年度

7

7-12月

8

12-2月

まちなかのポテンシャルと課題を探る 未来デザインワークショップ（第1回～第2回）

- 社会実験参加者や地域の方を中心に、まちなかの課題と期待を議論するワークショップを開催しました。
- 市民が期待する「未来のまちなか」を描き、イラストとして共有しました。



一宮まちなか未来ビジョン市民提案の検討プロセス

2021年度

1

11月

2

12-2月

2022年度

3

6月

4

7-9月

5

9-10月

6

12月-

2023年度

7

7-12月

8

12-2月

まちなかを変えるためのチーム結成 一宮まちなか未来会議設立総会

- 2022年6月27日に関わる官民によるエリアプラットフォーム「一宮まちなか未来会議」を設立しました。
- 多様な関係者が協力して、エリアの再生に向けて議論していくための組織が立ち上がりました。



具体的アクションを学びながら考える 未来デザインワークショップ°（第3回～第5回）

- 昨年及び設立総会での議論を受けて、一宮まちなか未来会議のメンバーを中心に、まちなかの将来像と、その実現のための具体的な取り組みを議論しました。
- 第3回には近隣地域の3名の実践者から、各地域での取り組みとポイントを学びました。
- つづく第4回から5回で具体的な取り組みのアイデアと、自分たちでも取り組めるアクションについて継続的に議論しました。



一宮まちなか未来ビジョン市民提案の検討プロセス

2021年度

1

11月

2

12-2月

2022年度

3

6月

4

7-9月

5

9-10月

6

12月-

2023年度

7

7-12月

8

12-2月

アクションを試し動かし検証する まちなかウォークブル社会実験2022

- 2022年の10月7日～9日に、2回目の社会実験を実施し、これまでの議論を含めた様々なアクションの試行を行いました。
- 普段は市内の様々な場所を拠点として活躍する30団体がまちなかに集まるとともに、通行止3日間で去年の倍となる約18,000人の歩行者がまちなかに訪れました。
- 普段でも休日でも、銀座通りや本町通りで多様な取り組みが行われ、日常的に出来事が起こるまちなかに近づいてきました。



出来ることから考え動き出す まちなか未来会議部会活動の開始

- これまでのワークショップの議論や社会実験での結果をふまえ、「公共空間」「地域資源」「情報発信」の3つに分かれ、市民それぞれが出来る取り組みの展開に動き出しています。



一宮まちなか未来ビジョン市民提案の検討プロセス

2021年度

1

11月

2

12-2月

2022年度

3

6月

4

7-9月

5

9-10月

6

12月-

2023年度

7

7-12月

8

12-2月

まちなかで学び・語りあい・広げる 一宮まちなか未来を紡ぐ場TUMUGUBAをスタート

- 未来会議が主体となって一宮まちなかの未来を共に学び・考え・語り合う場をスタート。
- 第1回～3回は専門家の講義や、学生提案をまちなかオープンスペースで聞きました。
- 第4回は先進地の岡崎中心市街地を視察



チャレンジの定着と日常化への試み まちなかウォークブル社会実験2023

- 2023年度は「ストリートチャレンジ 3 days & 365days」とし、従来の大規模社会実験を11月3～5日の3日間実施すると同時に、365daysでは日常の小さなチャレンジを促し日常化への試行を行いました。



様々な意見交換の場を紡ぐ TUMUGUBA後半及びまちなかを考えるシンポジウム

- 前半TUMUGUBAの学びや社会実験の成果を踏まえ、12/19「本町のミライを語ろう」、1/11「銀座のミライを語ろう」を開催したほか、2/28「まちなかを考えるシンポジウム」開催など、市民と様々な意見交換の場を設けました。



提案主体：一宮市まちなか未来会議

地域や行政、企業が一体となって中心市街地に関する様々な取り組みや情報を議論し、
具体的な活動につなげていくための組織

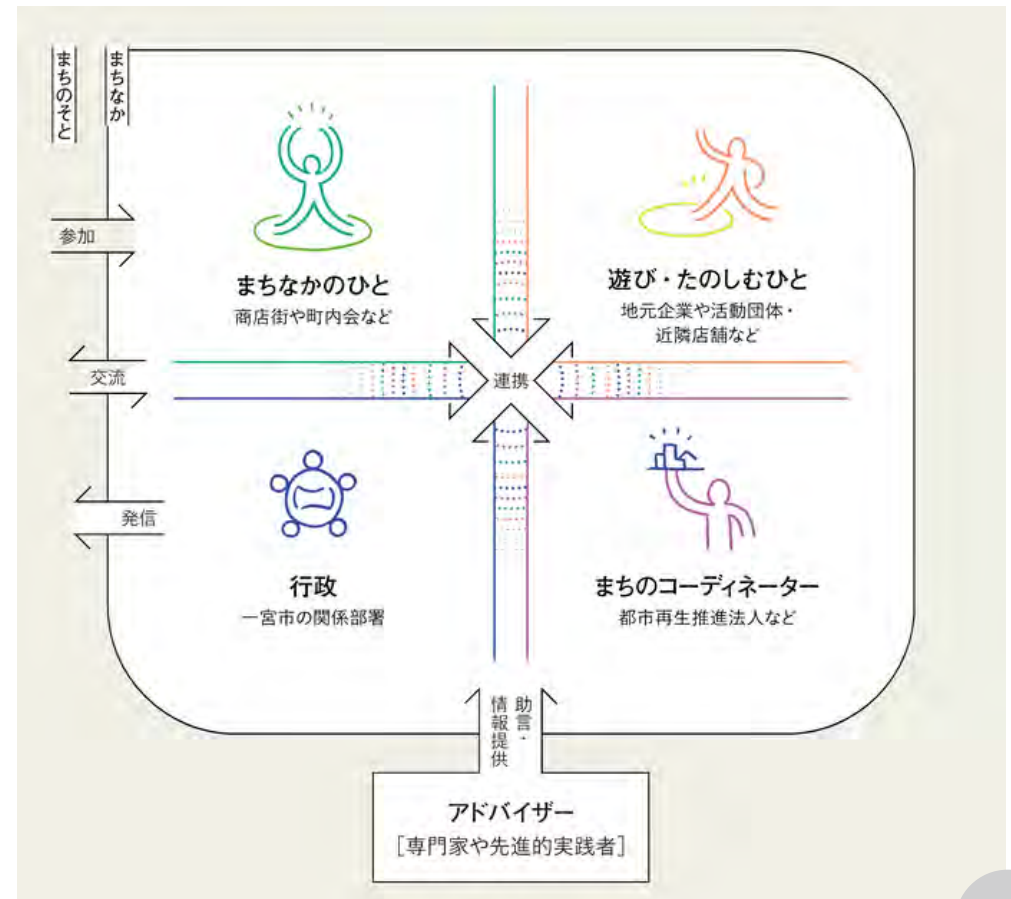
主な目的と活動内容

- 未来ビジョン策定及び策定に資する活動
- まちなかの実践的活動
- 会員間の情報共有や交流、連携支援

会員数 正会員27名・活動会員19名(2024年3月現在)

代表：安藤元二（一宮市本町通三丁目商店街振興組合）
 副代表：喜多茂樹（株式会社エコ建築考房）
 理事：塚越啓陽（真清田神社）
 塚本久美（株式会社アイ・シー・シー）
 富田隆裕（一宮市銀座通商店街振興組合）
 鳩山佳江（FMいちのみや株式会社）
 彦坂雄大（尾州のカレント）
 星野 博（NPO法人 志民連いちのみや）
 監事：野杓晃充（株式会社のいり）
 アドバイザー：出村嘉史（岐阜大学社会システム経営学環 教授）
 稀温（KionStudio コーディネーター）

体制図



2

まちなかの現状

- まちなかの危機
- まちなかの強みと弱み
- 社会実験で得た手ごたえ

まちなかの危機

- 一宮総合駅は、1日約9万人が乗降する駅であるにもかかわらず、駅からまちへの人の流れが非常に乏しいです。
- 当プロジェクト開始前の2020年度の市政アンケートでは、回答者の約8割がまちなかには賑わいを感じておらず、居心地の良さや親しみを感じている市民も過半数に満たず、危機的な状況です。（※その後2023年度市政アンケートでは改善）

銀座通りの昼間

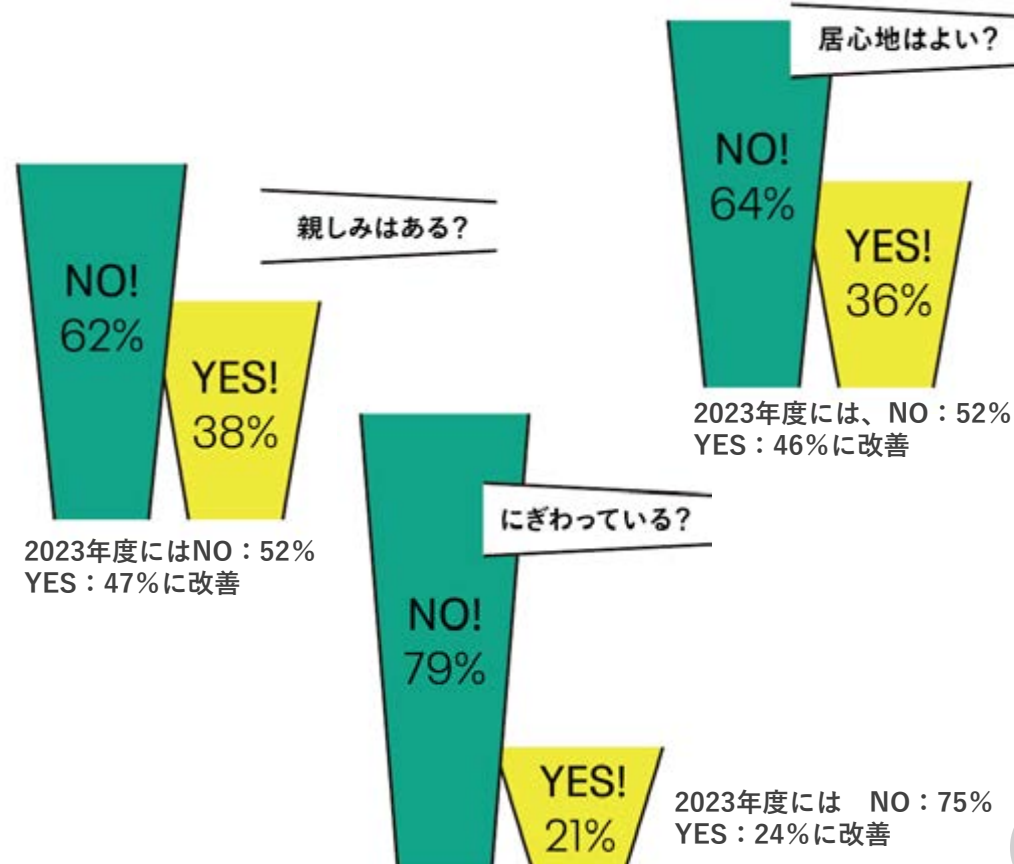


本町通りの昼間



みどりが少なく駐車場や車道、自動車が多い中心の空間

※図中の数値は、当プロジェクト開始前の2020年度市政アンケートの調査結果
回答者約1200名（3000名配布）。その後2023年市政アンケートで改善。



まちなかの強みと弱み

①織り重なる歴史と文化

- 一宮市のまちなかは、もともと真清田神社を中心とした門前町として栄え、近世には門前市や三八市など、尾張地域を代表とするマーケットとして成立してきたまちです。
- 鉄道が敷設された近代以降はさらに隆盛を極め、尾州の繊維産業の重要な営業拠点としても機能することで、様々な歴史と文化が折り重なり、現在も多様な歴史・文化資源が残っています。

まちなかの成立経緯と主な出来事

近世以前

真清田神社を中心とした門前町として、三八市や門前市など、尾張地域のマーケットの中心地として栄える

1921年	一宮市市制施行
1933年	尾西繊維協会ビル(現・Re-tail)建築
1935年	名古屋岐阜間で電車が開通(名古屋鉄道)
1953年	真清田神社本殿上棟
1956年	第1回おりもの感謝祭一宮七夕まつりを開催
1966年	豊島図書館(現・豊島記念資料館)開業
1971年	本町アーケード完成
1975年	銀座通地下公共駐車場の完成
1999年	銀座通シンボルロードの完成
2005年	一宮市・尾西市・木曽川町が合併
2012年	尾張一宮駅前ビル(i-ビル)完成
2021年	市制移行100周年、中核市に移行

まちなかの主な文化・歴史施設

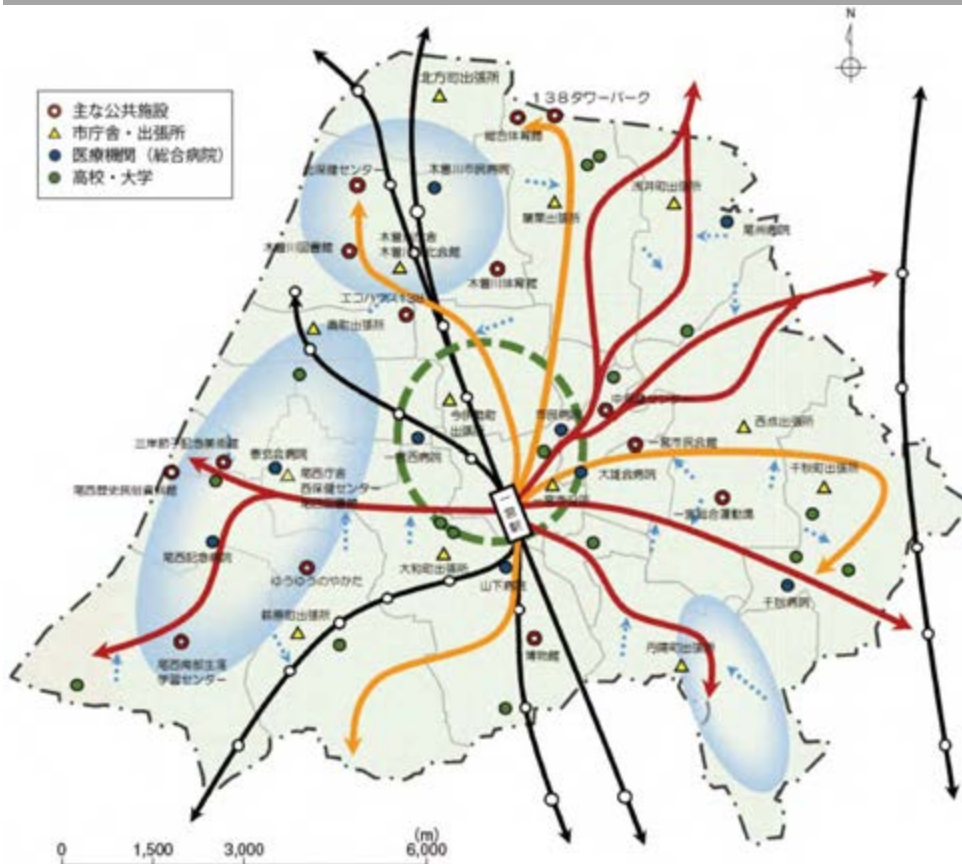


まちなかの強みと弱み

②一宮市の玄関口

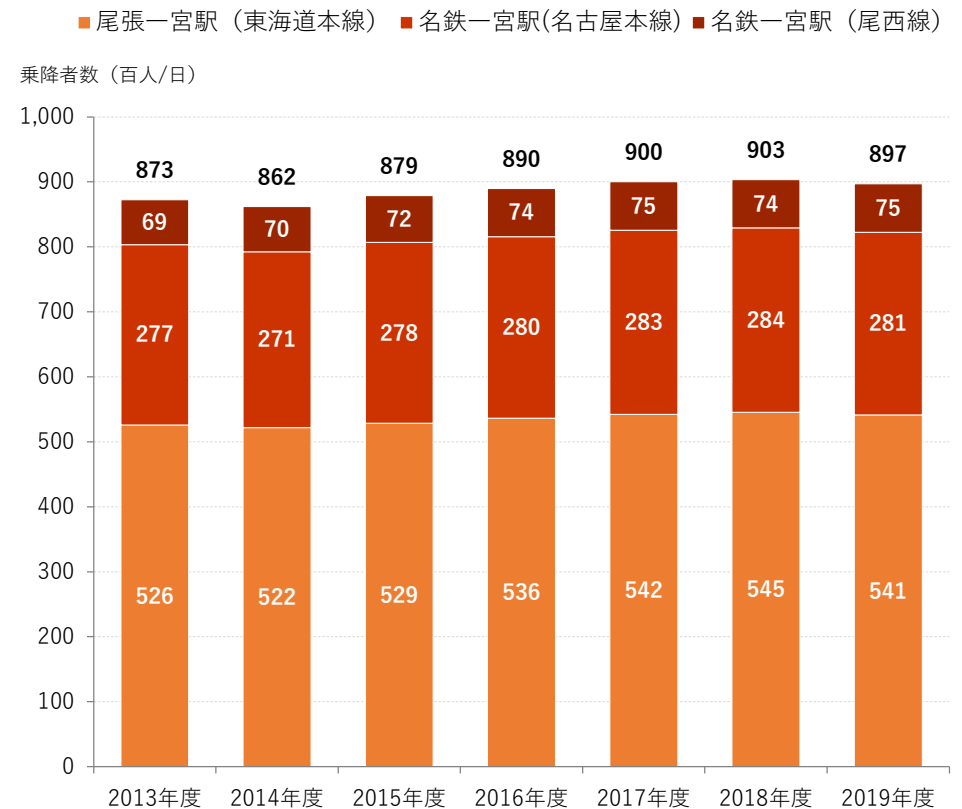
- 一宮総合駅は名古屋・岐阜・玉ノ井各方面までおよそ10分でアクセスでき、1日約9万人の乗降客が利用する尾張地域最大の鉄道駅であり、その他の市内各方面にも路線バスでアクセスできる立地環境です。
- 駅及び駅周辺には市役所をはじめ、図書館や子育て支援センターなど生活・文化施設が集積しています。

公共交通ネットワーク（第2次一宮市公共交通計画）



出典：第2次一宮市公共交通計画

一宮駅乗降客数の推移



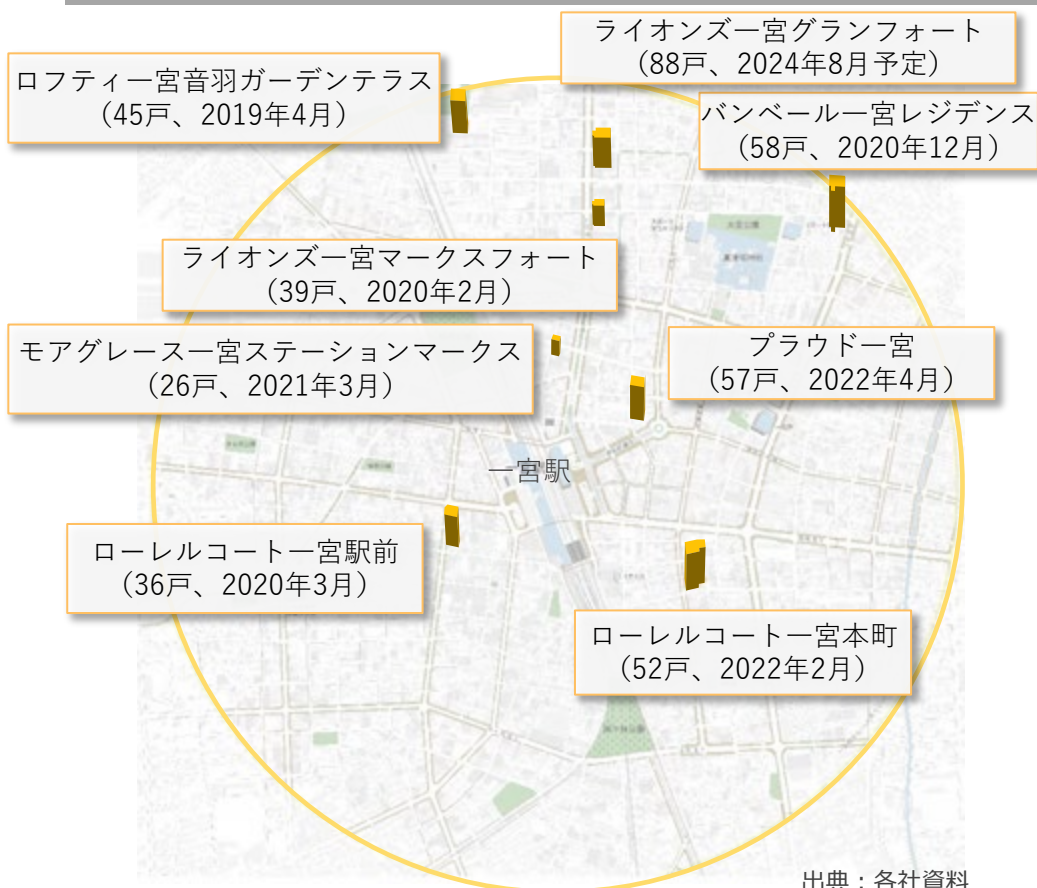
出典：各社資料

まちなかの強みと弱み

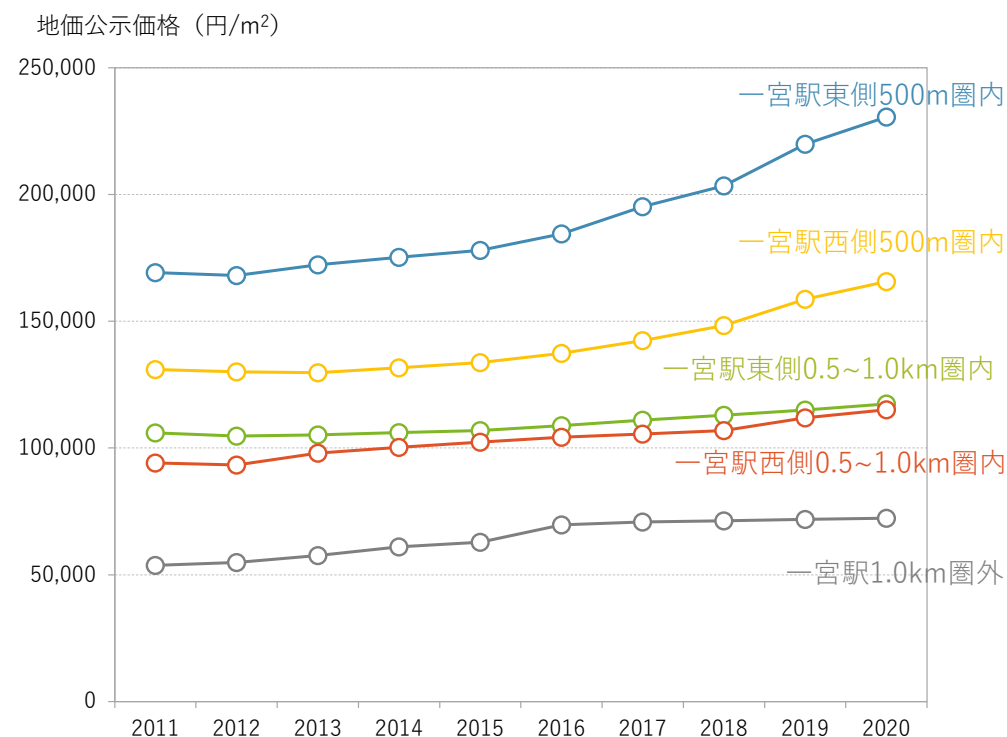
③進む都市居住

- まちなかの住宅開発、とりわけマンションが増加しており、今後も居住人口が増加することが期待されます。
- 一宮駅500m圏内、とりわけ東側で地価が上昇傾向にあり、今後の開発機運が高まる可能性もあります。

近年のマンション開発及び予定



一宮駅周辺の公示地価の推移

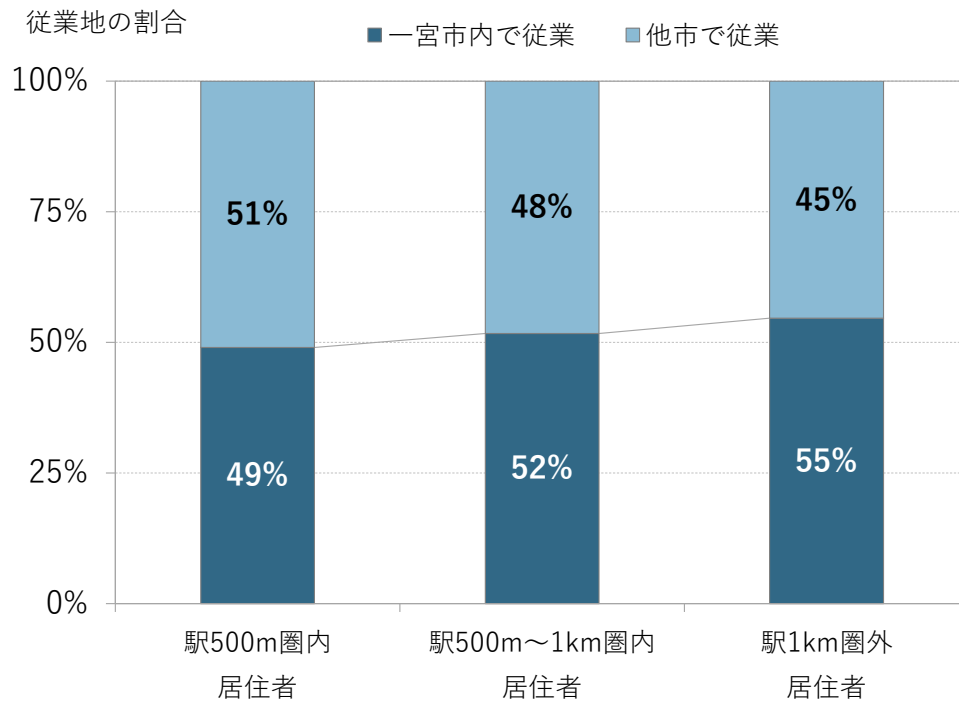


まちなかの強みと弱み

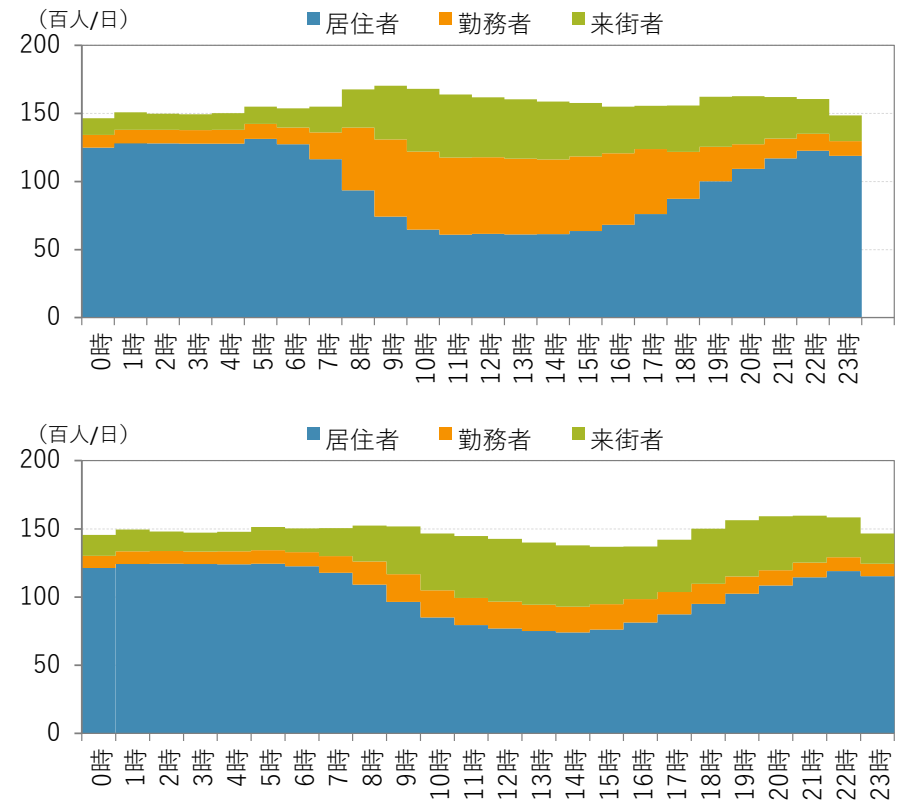
①少ない日中の滞在人口

- 一宮市全体で就業者の市内従業割合が小さく、駅周辺居住者は半数以上が市外に従業しています。
- まちなかにも関わらず昼間人口が少ない傾向にあり、平日の昼夜間人口比率は約1.1程度（13時台）、休日の昼夜間人口比率は1.0を下回っている時間も多く、日中にまちに人が少ない状況が続いています。

駅周辺及び市内居住者の市内外従業地割合



駅1km圏内の時間帯別滞在人口（2019年）



※居住者：駅1km圏内の居住者
 勤務者：駅1km圏内の勤務者
 来街者：駅1km圏外の居住者（駅1km圏内勤務者除く）
 ※ 20歳以上の人のうち、60分以上滞在した人を推定

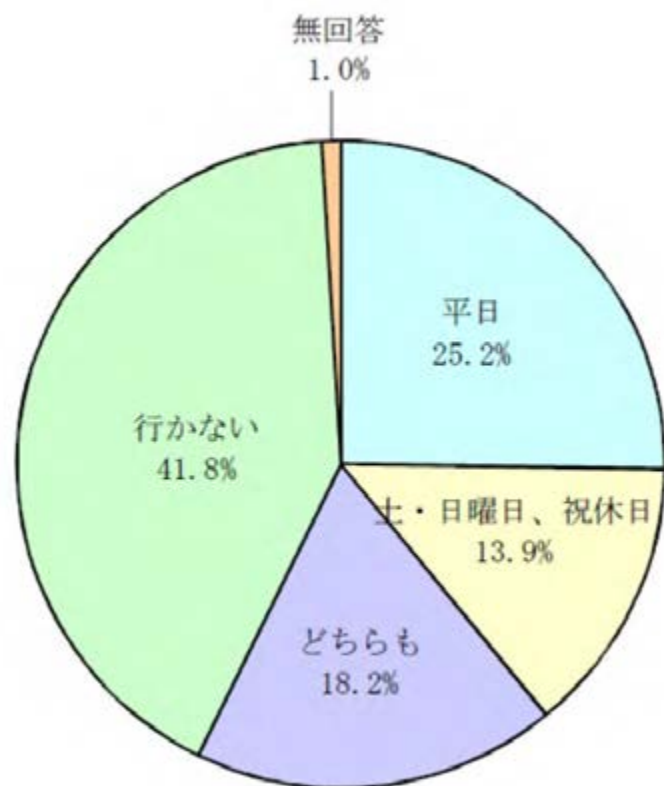
出典：KDDI Location Analyzer

まちなかの強みと弱み

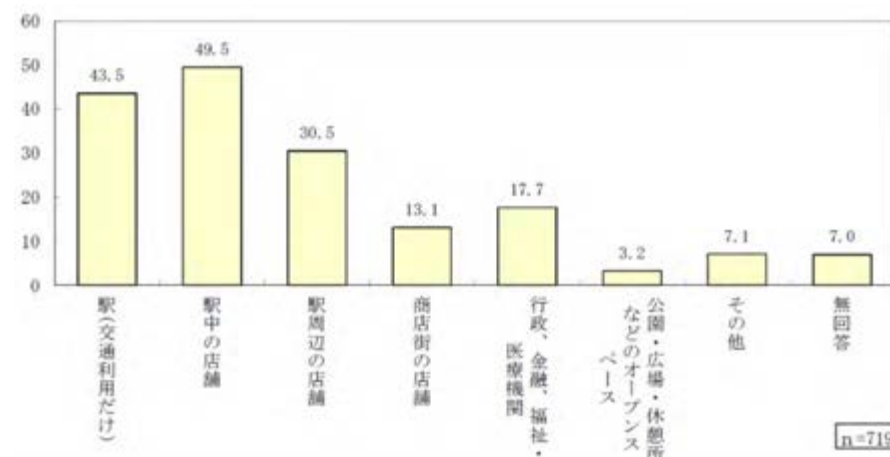
②市民のまちなかへの関わりの薄さ

- 市民の4割が一宮駅及び駅周辺に訪れる機会がなく、平日で約4割、休日では約3割しか利用がありません。
- 駅周辺に訪れる人のうち4割が駅利用のみであり、駅周辺店舗にはそのうち3割、商店街に至っては1割程度と少なく、平日に訪れる人の約5割、休日に訪れる人の約4割が滞在時間が1時間未満と回答しています。

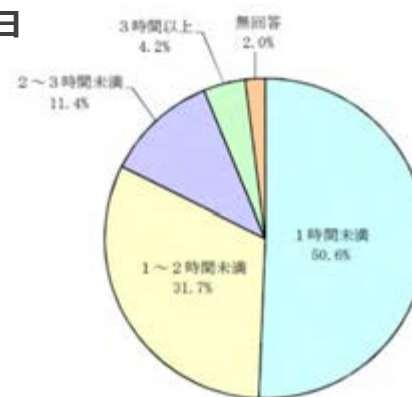
一宮駅及び駅周辺に訪れる人の割合



駅周辺に訪れる人の目的地の割合と滞在時間



平日



休日

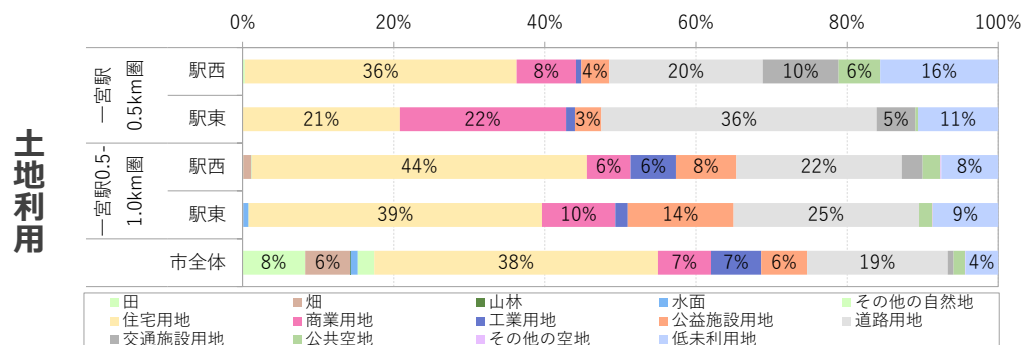


まちなかの強みと弱み

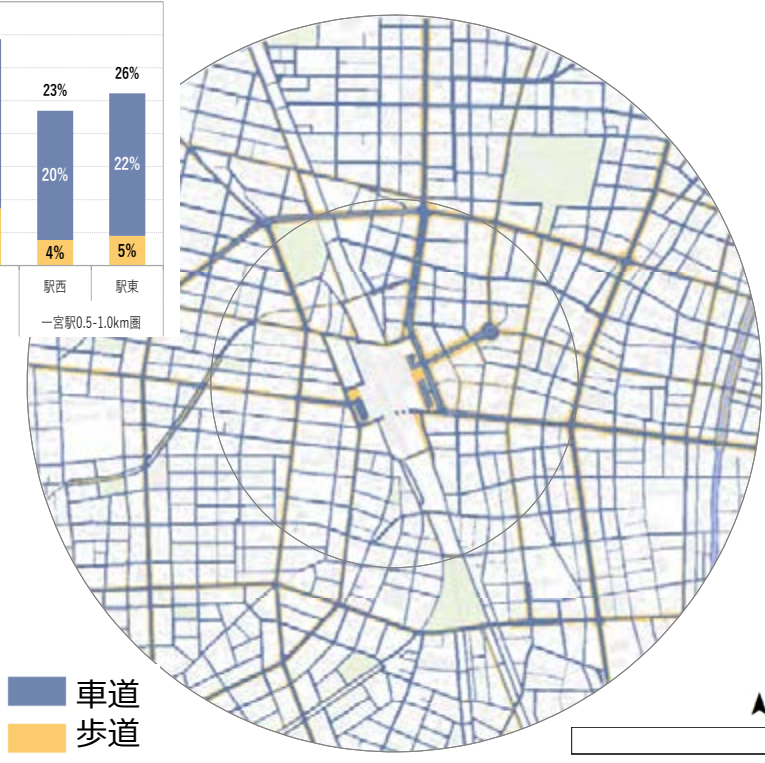
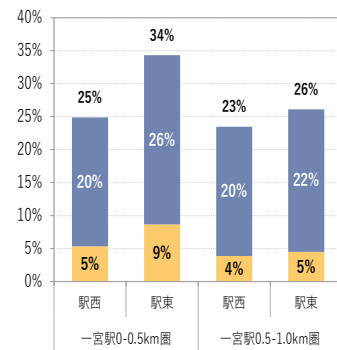
③ 多い低未利用地と少ない歩行者空間

- 一宮駅500m圏内では、道路用地の割合が高く、低未利用地の割合も東西ともに10%を超えています。
- 一宮駅500m圏内の面積に対して車道の占める割合は1/4と高く、一方で歩道の占める割合は駅東で9%、駅西で5%と未満と非常に少ないのが現状です。

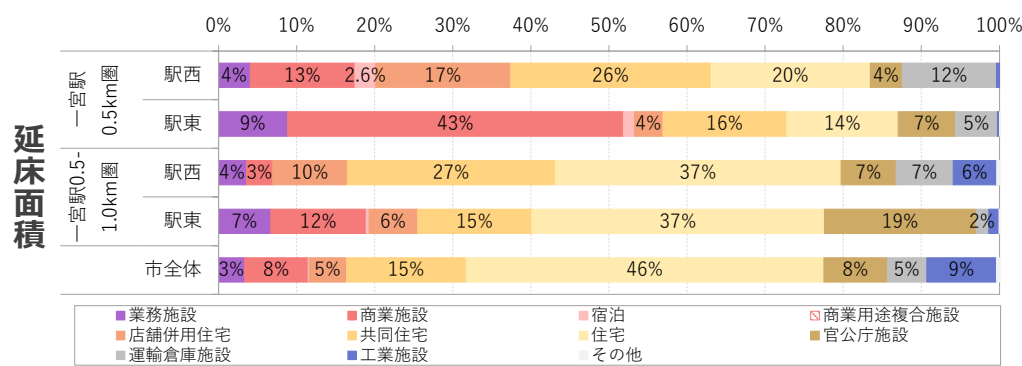
土地利用・建物利用用途の割合



地区面積に対する道路面積の割合



出典) 土地利用現況調査 (H28)



出典) 建物利用別現況図 (H29)

まちなかの強みと弱み

まちなかの再生に向けた問いの設定

まちなかの強み

- ① 織り重なる歴史と文化
- ② 一宮市の玄関口
- ③ 進む都心居住

まちなかの弱み

- ① 少ない日中の滞在人口
- ② 市民のまちなかへの関わりの薄さ
- ③ 多い低未利用地と少ない歩行者空間

まちなかの再生に向けた問いの設定

1. "市"の文化や歴史を活かしポテンシャルを発揮するには？

- ・まちなかは、古代から一宮の玄関口として、真清田神社や三八市から連なる歴史と立地を有した場所
- ・本来の「市」のように新しいモノやコト、人に出会い、発見できる場となれば、人の回遊が生まれるのでは？

2. まちなかに興味や関わりを持つ方を増やすには？

- ・まちなかの賑わいや魅力を高めるには、市内外の様々な人がまちなかに興味をもち、関わってもらうことが大事
- ・まちなかの資源に魅力を感じる方が、ビジネスや活動、挑戦が行いやすい環境を作れば市民の関わりが増えるのでは？

3. 居心地の良い公共空間が人の滞在を促すのでは？

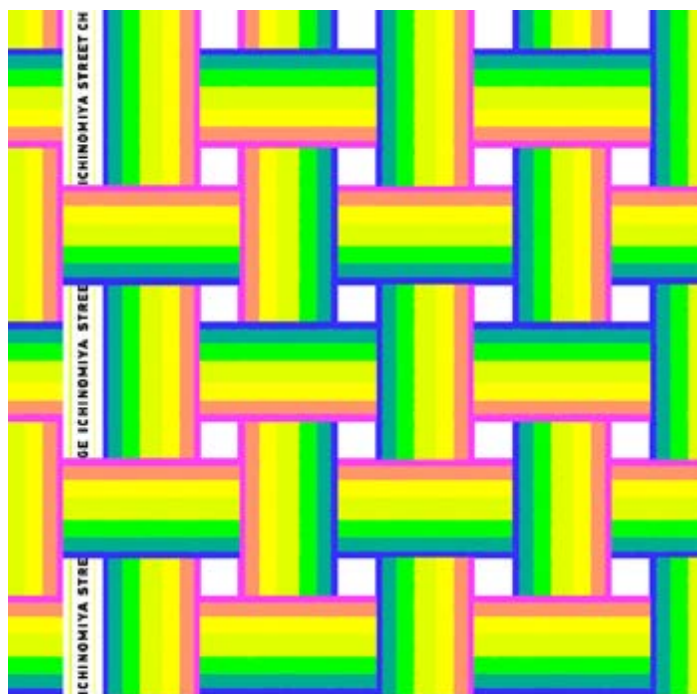
- ・現在のまちなかは、広い歩道や歩行者専用時間があるにも関わらず、立ち寄りたり休んだりする場所が少ない
- ・まずは住む人暮らす人にとって、居心地の良い滞在環境を整えば、人の滞在が増えるのでは？

社会実験による検証

社会実験で得た手ごたえ

一宮市ウォーカブル社会実験 ストリートチャレンジ

- 銀座通りの通行止めを中心に、まちなかの道路や公園、広場などの公共空間を開放し、市内でアイデアを持つ様々な団体に活用してもらった社会実験を2021年、2022年に実施しました。
- 社会実験に合わせて、銀座通りや本町通りの路上にベンチを設置し、滞在性向上による検証も行っています。



まちなかウォーカブル社会実験
ストリートチャレンジ



社会実験で得た手ごたえ

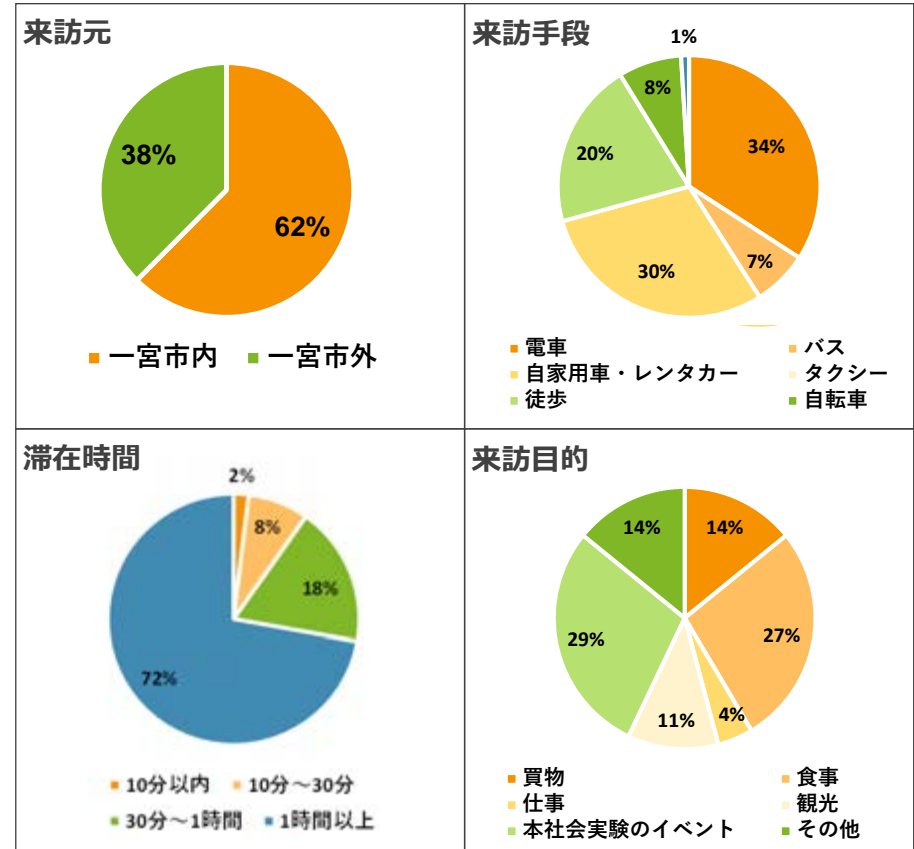
①まちなかのポテンシャルの再発見

- 3日間の通行止め時には、まちなか会場に約18,000人（2022年、2023年）の歩行者が訪れました。
- 市外からの来訪者、公共交通利用者がそれぞれ4割と、幅広いエリアからお越しいただくとともに、3日間の売上が1,000万円に上るなど、経済活動基盤としてのまちなかのポテンシャルが確認できました。

通行止め期間の歩行者数

	2021 (10/22-24)	2022 (10/7-9) 2021年比	2023 (11/3-5) 2021年比
金曜	1,487 夜間のみ	1,516 2%増加 夜間のみ	5,571 274%増加 終日開催
土曜	2,764	9,755 253%増加	7,133 158%増加
日曜	4,997	7,279 46%増加	4,803 4%減少
合計	9,248	18,550 101%増加	17,507 89%増加

通行止め3日間の来訪者属性・滞在行动

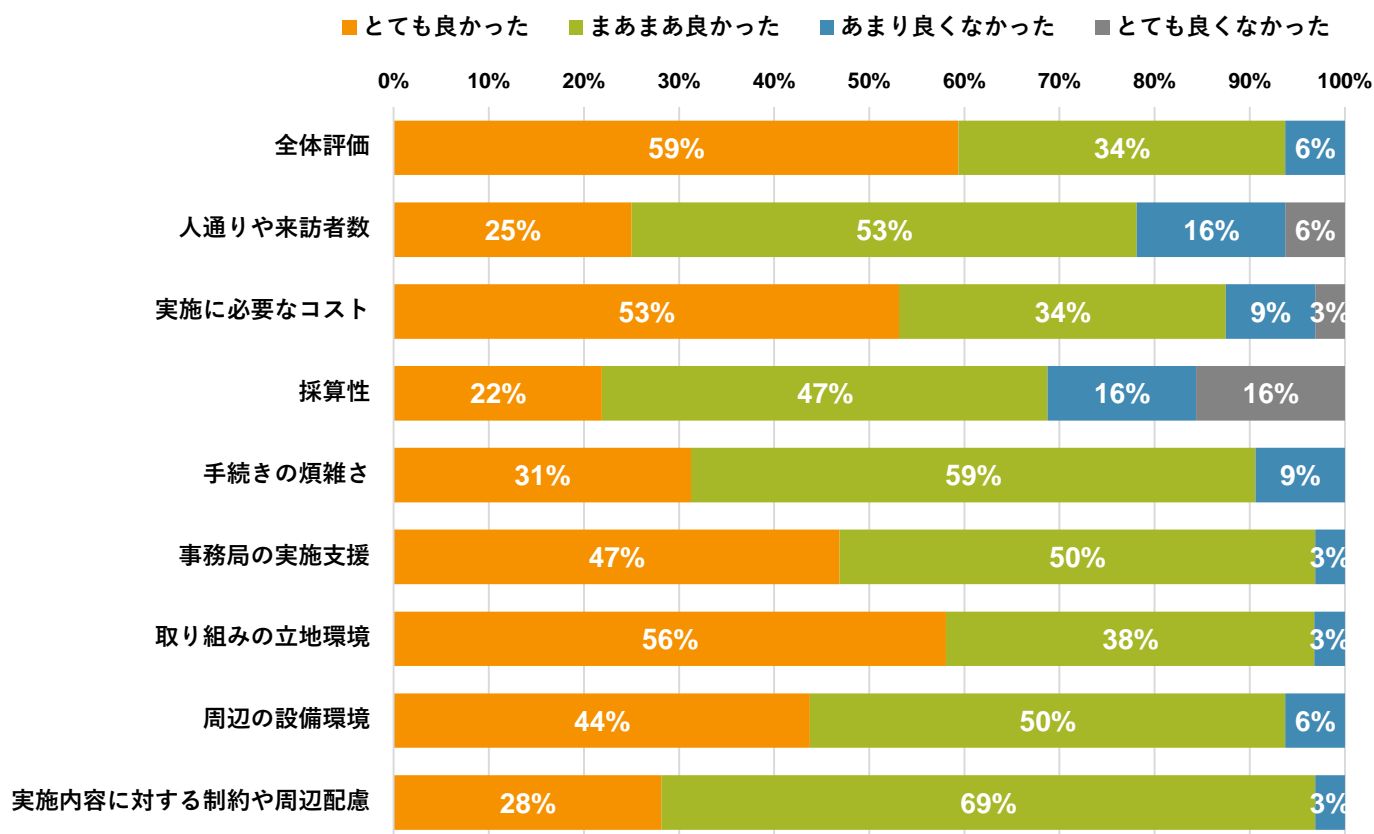


社会実験で得た手ごたえ

②一宮市内の豊富な魅力と活動の巻き込み

- 2021年には19団体、2022年には30団体が参加し、市内の多様な活動がまちなかに集結しました。
- 参加団体の9割がまちなかの立地や設備、周辺環境が「よかった」と回答し、まちなかに興味を持っています。
- 2022年には通行止3日間だけでなく、その他の休日での展開も見られ、活動が日常にも広がりつつあります。

参加団体による社会実験の評価（2022年）



平常時の取り組み例



社会実験で得た手ごたえ

②一宮市内の豊富な魅力と活動の巻き込み

市内の様々なエリアから、多様かつ魅力的な活動やプログラムが集結

尾州産地の魅力と文化の発信



木曽川のマリナクティビティ



木曽川流域らしい木育ワークショップ



繊維のまちのファッションショー



大野極楽寺公園で展開しているアウトドアマーケット



まちなかで継続的に展開するクラフトマーケット



社会実験で得た手ごたえ

③滞在性の向上が人通りを生む

- 銀座通りや本町通りに様々なベンチを設置することで、季節の良い10月（2022年）には1日あたり157名が、様々な目的でベンチを利用するなど、滞在性向上が通りに人の姿や流れを生むことが確認できました。
- ベンチや滞在する人がいることで通りの風景に好印象をもたらし、7割の方が風景が良くなったと回答しています。

社会実験で設置したベンチと1日あたりの利用者数



■ 2022年設置ベンチ

日平均利用者数：32名



■ 2021年設置ベンチ（屋根）

日平均利用者数：24名
（1基あたり）

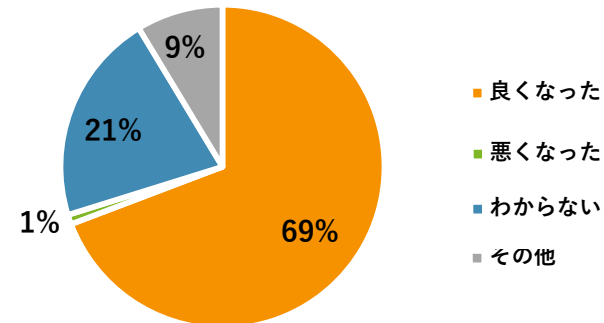


■ 2021年設置ベンチ（小型）

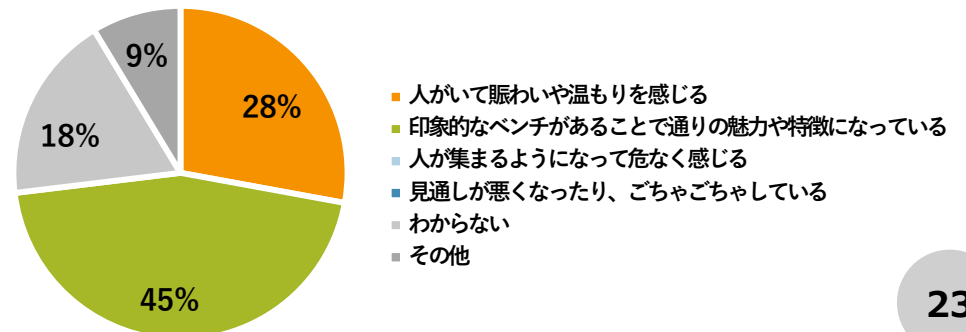
日平均利用者数：18名（銀座通り）
5名（本町通り）
（1基あたり）

ベンチ設置後の銀座通りの風景の評価

銀座通りの風景の変化



風景の評価に対する理由



社会実験で得た手ごたえ

③滞在性の向上が人通りを生む

ベンチがあることで生まれる様々な通りの風景や営み



社会実験で得た手ごたえ

社会実験で得た手ごたえとまちなか再生の方向性

まちなかの再生に向けた問い >> 社会実験で得た手ごたえ >>

まちなか再生の方向性

1. "市"の文化や歴史を活かし、ポテンシャルを発揮するには？

出会いや出来事があれば、
まちなかに人は集う

新しいモノやコト、人に出会い、発見できる
魅力があれば人の流れを生む

①真清田神社と三八市の文化をつなぐ

売買だけでなく、新しいモノやコト、人に出会い、発見でき、
挑戦できる本来の「市」としての魅力を取り戻す

2. まちなかに興味や関わりを持つ方を増やすには？

挑戦しやすい環境が
まちなかへの関りを生む

挑戦が行いやすい環境づくりが
人の関わりと新たな魅力を生む

②まちなかに関わる人を増やす

単に訪れるだけでなく、まちなかの資源に魅力を感じ、
ビジネスや活動、挑戦を行う人を増やす

3. 居心地の良い公共空間が人の滞在を促すのでは？

公共空間の豊かさが
まちに人の営みや風景を作る

滞在性が高まることで、
人の気配や暮らしがまちに生まれる

③歩きやすく暮らしやすいまち

公共空間の回遊性・滞在性を高めるとともに、沿道利用を
活性化し、歩いて暮らせ、楽しいまちへ生まれ変わる

3
まちなかの未来

- まちなかの未来に向けた思い
- 未来のまちなかの合言葉（キャッチフレーズ）
- 未来のまちなかのイメージ

まちなかの未来に向けた思い

杜・まち・人が織りなす、 驚きや発見の生まれる次の100年へ

一宮のまちなかは、近世以前から真清田神社とそれに連なる参道として、三八市に代表される「市」を中心としてまちが栄えてきました
1921年の市政移行後も、本町通りや銀座通りを中心に一宮の商業の中心地として、市全体を支え、にぎわいだけでなく、様々な出会いや発見、挑戦を育んできました

2021年で一宮市が生まれてからちょうど100年
この先の100年を見すえ、この街に住む人、働く人、活躍する人みんなから、愛され、必要とされるまちなかとして、
多くの人を巻き込みながら、より様々な驚きや発見、魅力を生むまちなかを実現します

まちなかの未来に向けた思い

まちが自律的に発展する仕組みを作ること、木曾川や繊維など一宮の様々な魅力が集まる場所になってほしい！

喜多さん

互いにものが言えて、楽しい顔ができる。この顔をどんどん作っていけると、まちはもっともっと賑わいのある素晴らしいまちに！

安藤さん

一宮の名前の由来は真清田神社。まちなかで何かやっているというイメージを市民に持ってもらい、普段から銀座通りに来ていただけるようにしたい！

富田さん

若い人や新しく来た人には知られていない一宮の歴史や魅力がまだまだあると思う。そんな魅力を多くの人に発見してもらえるまちにしたい！

鳩山さん

一宮は真清田神社の門前から開けたまち。神社を中心に、まちが再び盛り上がるように努力していきたい！

まちなかの中でも、すでに様々な取り組みやプロジェクトが行われている。これらともっともっと連携して、相乗効果を発揮していきたい！

塚本さん

塚越さん

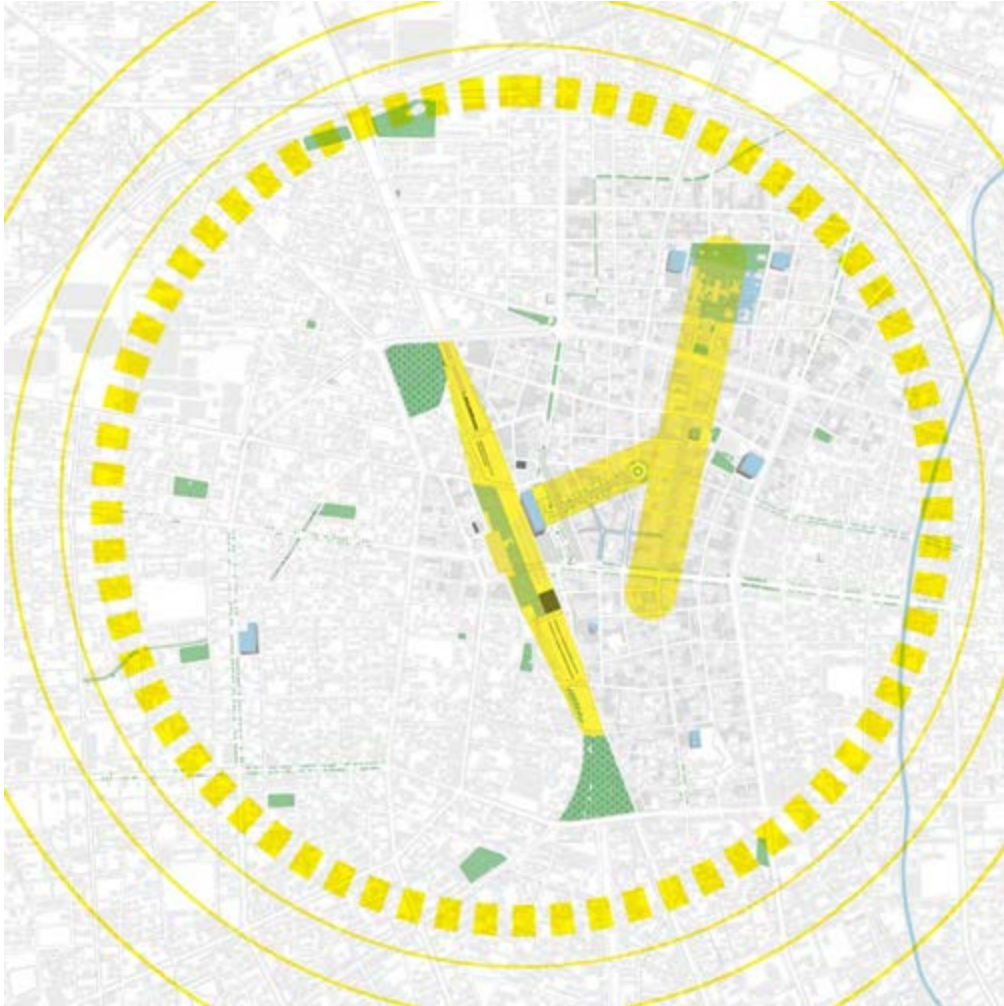
一宮の駅前やまちなかが、もっと“せんいのまち”であることや、尾州の産地のことを感じられる場所になってほしい！

彦坂さん

これまでの民間の活動はバラバラで、行政のサポートもうまくかみ合っていなかった。中間的な立場で両方をつなぎ、地域の活動を支援したい！

星野さん

未来のまちなかの合言葉



OH! ICHINOMIYA

プロジェクトネーム

OH! ICHINOMIYA (読み：おう！いちのみや)

コピー

**杜・まち・人が織りなす、
驚きや発見の生まれる次の100年へ**

【プロジェクト名称の解説】

- "OH"は、一宮駅の1km圏内を示す円と、本プロジェクトの重要な位置付けである3つの軸（銀座通り、本町通り、鉄道）を図形化したものです。
- "!"は、エクスクラメーションマーク(感嘆詞)であると同時に、一宮の頭文字"i"を180度回転させた図形でもあります。
- 驚きの間投詞として知られる"OH"と"! "を組み合わせることによって、一宮のまちを180度違う視点から見ることによる、驚きや発見が生まれることを期待しています。

未来のまちなかのイメージ

このイメージは、ワークショップで市民から頂いた未来のまちなかへの夢をもとに、市内のイラストレーターに描きこんでいただいたものです
今後、取り組みが進むとともにさらに充実していきたいと考えています

木曾川との
つながり



公園の更なる
滞在性向上

まちのアートや
文化促進

まちなかでの
“せんい”“ひつじ”
のプロモーション

自転車での
回遊性向上

高架下の
有効活用

学べる場の創出

アーケード下の
テラス的な
活用促進

空き家空き地の
有効活用

まちなかでの
広場的な空間
創出・活用

屋上や駐車場など
様々な場所の活用

オリナスの
活用促進

一宮の生活文化の
情報発信

まちの積極的な
情報発信

市役所や駐車場
をもっと身近に

子どもたちの
遊べる場や
みどりの創出

スケート場
跡地活用

まちなか公園
の充実・活用

真清田神社を
活かした
まちづくり

4

取り組みの提案

- 取り組み方針
- 具体的な取り組みのアイデア

驚きや発見の生まれるまちへのアクション（取り組みの方針）

OH! ICHINOMIYA

1 新しい価値があふれる公共空間に！

まちなかの様々な公共空間で、様々な取り組みや新しい挑戦を行いやすくなる環境づくり

2 誰もが誇れるまちなか空間を！

居心地よく過ごせ、歩いて回れるウォーカブルなまちなかを創出するための空間づくり

3 “市”の文化を活かした通りの再生を！

商店街や公共施設、高架下の様々な空間資源の活用により、日常的に活気があふれる通りの再生

4 まちの資源に新しい価値を埋め込もう！

空き家や空き地など、地域の空間資源の活用によるまちの新たな魅力を育む仕掛けづくり

5 誰もが訪れやすいまちなかに！

誰もがまちなかに気軽にアクセスし、回遊しやすくするためのまちなか交通環境の形成

6 “いちのみや”“びしゅう”を知ってもらおう！

一宮とまちなかの魅力や活動を積極的に知ってもらうための情報発信とその仕組みづくり

7 挑戦し持続できるまちの仕組み作りを！

自律的かつ持続的にまちを運営するための仕組みづくりと新たな人や挑戦を巻き込むことができる土壌づくり

具体的な取り組みのアイデア

① 新しい価値があふれる公共空間に！

まちなかの様々な公共空間で、誰もが様々な取り組みや新しい挑戦を行えるような仕組みを構築することで、まちなかに訪れる人がいつも新しい発見や驚き、価値に出会えるまちなかをめざします。

■ 具体的な取り組みアイデア

- まちなか公共空間の場所と、場所ごとの条件や制約などが分かる手引きやカタログ、マップを作成することで、より多くの人に活用してもらうためのきっかけを増やす
- 公共空間活用を行うための申請窓口の一本化や活用手続きの簡便化やマニュアル化、web等によるシステム化などにより、申請時の手間や時間を節約できるようにする
- 新しい利活用アイデアや場所の活用に関する取り組みや挑戦を提案できる仕組みを作ること、新しい挑戦や可能性を増やす
- 駅前広場やコンコース、夢織り広場など、歩道や公園・広場以外の公共空間の発掘により、より様々な場所で活気を生み出す
- 公共空間にすでに設置してある設備（電源・給水等）の利用環境の充実や利用手続きの簡便化により、場所の価値を更に高める
- 日常的な公共空間の維持管理や清掃などの体制・仕組み作りで、使うだけでなく、守ることも地域で大切にする

■ ワークショップで出てきた意見の例

地下だと音も気にならないので、音楽イベントなどいろんな可能性がありそう！

場所ごとの活用条件や制約などが一覧でわかってると、もっといろんな企画が考えれそう！

■ 取り組みの実施手法に関するイメージ

- 都市再生推進法人やまちづくり会社が主導して、行政や各施設管理者と活用主体、地域との間を取り持つ役割を担う
- 地域と施設管理者、活用主体が一体となって、学びあいや維持管理への取り組みを展開する



銀座通り歩道の活用《2022社会実験》



夢織り広場の活用《2021社会実験》

具体的な取り組みのアイデア

② 誰もが誇れるまちなか空間を！

一宮総合駅を中心としたまちなかの公共空間を、誰もが歩きやすく、楽しめる空間へと転換することにより、駅からまちへと人の流れを生み出し、一宮市民の誰にとっても誇れるまちなかを実現します。

■ 具体的な取り組みアイデア

- 駅から銀座通り、本町通り真清田神社をつなぐ歩行者ネットワークを徹底的に歩きやすくするとともに、一宮らしさやほこりを感じられる景観づくりを行い、駅からまちへと人の流れを生み出す
- 目抜き通りである銀座通りの歩行者空間を拡大するとともに、ベンチなど滞在環境を大幅に充実し、居心地の良い新しい風景を創り出す
- 広い歩道を沿道のお店やイベントなどが行いやすい空間へと作り変えることで、いつも何かやっている通りを実現する
- まちなかにすでに点在している公園や広場において、みどりや滞在空間を更に充実し、子どもが安心して歩き、遊べる空間を増やす
- 稲荷公園・梅が枝公園・大宮公園の広いスペースを活用し、様々な世代が日常的に憩い、過ごせる空間へと充実を行う
- 夜間でも安心して回遊できるように、照明を中心に安全安心な通りの環境づくりを進める

■ ワークショップで出てきた意見の例

駅から真清田神社まで迷わず回遊できるように、一宮らしい景観づくりを進めてほしい！

まちなかを歩き回るのに、信号待ちをしなくて済むくらい、徹底的に歩きやすくしてほしい！

■ 取り組みの実施手法に関するイメージ

- 行政が主導して、地域の意見を聞きながら、今後のまちなか空間のあり方を検討し絵姿を示す
- 行政投資だけでなく、民間投資を活用しながら、それぞれの公共空間の充実や再構築を進める



銀座通りのベンチ《2021社会実験》



銀座通りの通行止《2021社会実験》

具体的な取り組みのアイデア

③“市”の文化を活かした通りの再生を！

本町通り商店街の沿道や店先、周辺に立地する公共施設等の活用により、商品の売買だけでなく、いつも新しいものや価値に出会える、三八市の歴史をつなぐ通りの再生を目指します。

■ 具体的な取り組みアイデア

- 商店街の店先や、普段シャッターが閉まっている店舗前の空間を使用して、軒先市やチャレンジショップなど、新たな挑戦がしやすい環境づくりを行う
- 商店街に面している空き地や空き店舗等の暫定利用や広場化を行い、商店街のお店の連続性と活気を取り戻す
- オープンカフェなど、沿道店舗と一体となった通りの活用に向けた実証実験を行う
- 真清田神社周囲の通りや店舗の活用により、特徴的な空間資源を活かした文化を生み出す
- オリナス一宮を今よりもっと市民が様々な活動や取り組みで利用しやすくするため、設備や利用方法、料金や管理形態を見直す
- スケート場跡地などを活用し、まちなかでスケートボードが出来る場所を生み出す
- 高架下空間を有効活用し、駅からまちへの新たな通りを作る

■ ワークショップで出てきた意見の例

スケート場跡地などを使って、子どもたちがスケートボードをやる環境をまちなかに！

本町通りが食べ歩きできるような通りになるともっと人の流れが増えると思います！

■ 取り組みの実施手法に関するイメージ

- 公共施設については、行政や施設管理者が中心に、現在の活用方法の見直しや取り組みを地域と議論する
- 商店街については、商店街・地権者・まちなか未来会議が連携し、まずは1件、モデルプロジェクトを実現することを目標にする



本町通りの活用《2022社会実験》



夢織り広場の活用《2021社会実験》

具体的な取り組みのアイデア

④ まちの資源に新しい価値を埋め込もう！

空き家や空き店舗など、地域にすでにある空間資源を積極的に活用し、これまでまちになかった様々な魅力や用途、機能を充実し、まちの魅力の多様化と集積を目指します。

■ 具体的な取り組みアイデア

- まずは、空き家・空き店舗見学ツアーやオープンデータ・プラットフォームの整備など、まちに眠る空き家や空間資源を調査し、資源の発掘を行う
- モデルプロジェクトの実現を通じて、不足業種、スモールオフィスやアートなど、多様な魅力をまちに埋め込む
- 空き家活用が活発となるための補助の仕組みなど、持続的な支援の仕組み作りを行う
- ビジネスコンテストやアイデアソンなど、空き家活用に興味のある人材や企画の提案機会の創出と巻き込みを行う
- 企業や創業支援、リノベーション、DIYに関する勉強会の開催など、空き家活用に取り組むための機会作りを積極的に行う

■ ワークショップで出てきた意見の例

モデルプロジェクトを動かして、借りたい人と貸したい人を繋ぎたい！

若い人も来やすいまちなかに、アートギャラリーとブックアーカイブが作りたい！

■ 取り組みの実施手法に関するイメージ

- まちなか未来会議の有志で、空き家・空き店舗の発掘や、モデルプロジェクトの実現など、今後の空き家活用に向けたプロジェクト化を実現する
- リノベーションスクールなど地域の外からの力も借りる



地域資源部会のまち歩きの様子



真清田神社沿いの店舗

具体的な取り組みのアイデア

⑤ 誰もが訪れやすいまちなかに！

市内外からどなたでもまちなかにアクセスしやすく、安全かつ楽しく回遊できる仕組みを作り、多くの方がゆっくりと過ごしてもらえるまちなかへと転換します。

■ 具体的な取り組みアイデア

- 公共交通や自動車など、様々な手段でアクセスしやすくするための交通戦略を検討を行う
- まちなかへの自動車や自転車でのアクセスの考え方や方針を明らかにしたうえで、まちなかに必要な駐車場・駐輪場の配置や、公共駐車場等の活用、駐車場満空情報の提供によるまちなか駐車場のあり方の適正化を行う
- まちなかでの自転車の利便性を向上し回遊性を更に高めるため、シェアサイクルやレンタサイクル、駐輪場の整備、駐輪ルール等の整備などを進める
- まちなかでの回遊性を高めるため、様々なモビリティの導入を検討を行う
- 平野の地形を活かし、ロードバイク等で広域での回遊性を高めるとともに、他エリアとの接続強化を行うため、広域的な自転車走行環境の充実を行う

■ ワークショップで出てきた意見の例

自転車で商店街へ来訪する人も多いので、一辺倒な規制ではなく、エリアの状況に応じた対策を検討したい！

平野を活かした自転車での楽しみ方を提案し、まちなかと繋がるきっかけをつくりたい！

■ 取り組みの実施手法に関するイメージ

- 行政を中心に、まちなかへのアクセスや回遊性に関するモビリティの考え方を整理したうえで、民間事業者とも連携してまちなか交通の充実を図る



地下駐車場の写真



電動キックボード実験時の写真

具体的な取り組みのアイデア

⑥“いちのみや”“びしゅう”をもっと知ってもらおう！

真清田神社や繊維産業など、まちなかの魅力を積極的に情報発信することで、市内外の様々な人が一宮市やまちなかの魅力に気づき、訪れるまちなかへと成長します。

■ 具体的な取り組みアイデア

- まちなかの様々な魅力を知ってもらうためのまち歩きマップを作成し、エリアの様々な場所で展開することで、まちなかの魅力を知ってもらうきっかけづくりを行う
- デジタルサイネージやスマートポールなどのDX技術、まちなかのサイン計画の充実を行うことで、行きたい場所迷わず行ける、わかりやすい情報案内の環境づくりを行う
- 親子で楽しめるプログラムなど多様なテーマでのイベント企画の創出や受け入れ、まちなかの様々なイベント情報の集約、イベントを通じたコミュニティの形成を進める
- まちなかで繊維に触れる／買える機会、真清田神社の例祭や歴史を学ぶツアー、ラウンドアバウトを活かしたイベントなど、一宮の資源を知ってもらう機会を創出する
- 市民が積極的に参加できる、一宮らしい七夕まつりの企画を充実する

■ ワークショップで出てきた意見の例

駅を出てすぐに繊維のまちだということが分かるように、コンコースを活用したい！

一宮市やまちなかで昔からやっている隠れた名店や魅力にもっと気付いてほしい！

■ 取り組みの実施手法に関するイメージ

- まちなか未来会議を中心にまち歩きマップを作成するなど、出来ることから一宮の魅力や情報を収集し、積極的に発信する
- 行政や地元メディア、交通事業者などがそれぞれの媒体を活用して、質の高い情報発信や工夫を積極的に行う



情報発信部会の写真イメージ



イベント案内看板《2022社会実験》

具体的な取り組みのアイデア

⑦ 挑戦と持続を両立するまちの仕組み作りを！

まちなかで挑戦するきっかけをたくさん作り、いろんな人がまちなかに関わってもらって環境づくりを行うとともに、まちづくりが地域で持続的に経営できるための体制づくりを行います

■ 具体的な取り組みアイデア

- より多様なメンバーがまちの未来を考え、議論し、ともに作っていくことに関わってもらうため、まちなか未来会議の体制を充実する
- まちづくり活動を持続可能な形へと転換するため、まちづくりの事業化を行い、持続的な収益事業を確保するとともに、まちづくり会社の設立など必要な体制づくりを行う
- 商店街の各店舗など、地元の商業者に積極的に関わってもらうとともに、まちなか以外の人を巻き込む仕組み作りを行う
- 学生や若者をはじめとして、様々なチャレンジを後押しできる支援制度や取り組みを充実することで、若者が参画できるきっかけを積極的に生み出す
- 継続的なまちづくりの担い手や、まちで新しいことを始めたい人の後押しや人材育成を行う
- まちの様々なデータを蓄積し、これらを活用する魅力づくりを行う

■ ワークショップで出てきた意見の例

都市再生推進法人として、行政と地域との間に入りながらまちづくりを支援したい！

様々な取り組みや事業を相互に連携させて、まちなかの魅力と事業が継続する仕組みを！

■ 取り組みの実施手法に関するイメージ

- まちなか未来会議や都市再生推進法人としての取り組みや事業を活発にし、まちづくりの継続的な資金確保の仕組みを作る
- 市民が中心となって声を掛け合い、少しずつまちなかに興味を持ってもらい、巻き込める仕組み作りを行う



まちなか未来会議勉強会



本町通りの活用《2022社会実験》

5
エリア別ビジョン

- エリア別ビジョンについて
- 本町通りエリアビジョン
- 銀座通りエリアビジョン

■エリア別ビジョンについて

この「一宮まちなか未来ビジョン」は、概ねの対象範囲である一宮駅から約1キロの徒歩圏の全体ビジョンとして提案していますが、その範囲はかなり広く、そのなかでも各地区(エリア)ごとに状況や特性は様々な違いがあり、課題や目指す方向、担い手にも違いがあります。

そこで、前章までの全体ビジョンに加えて、この章では「エリア別ビジョン」を提案します。このエリア別ビジョンは、各エリアの現状や課題や担い手を踏まえて、より具体的な方針として提案し、当面の取組みへの指針とすることをねらいとしています。そのため、取組みが進めば、エリア別ビジョンもバージョンアップするものと考えます。

まずは、2024年に「本町通りエリア」と「銀座通りエリア」で提案しますが、担い手や準備が整えば、さらに別のエリアでも作成を進めたり、更新をしていきます。

他のエリア別ビジョンの候補としては、例えば以下のようなエリアビジョンが考えられます。

- 真清田神社周辺 エリアビジョン
- むすび小路 エリアビジョン
- 本町南&リテイル エリアビジョン
- 西口駅前 エリアビジョン
- 高架下&公園 エリアビジョン

など

5. エリア別ビジョン2024

■新たに見えてきた、まちなかの課題

(1) 特別イベントの賑わいから、日常の暮らしの賑わいへ

- ・社会実験イベントの開催で賑わいを、日常の賑わいにつなげたい。

(2) 日常のチャレンジを受け止める機会がない。

- ・外からのチャレンジを受けとめる受け皿がなかなかない。
- ・チャレンジできる空き店舗などの情報がない。
- ・チャレンジする人が新しい企画を考えられる機会を

(3) 公共空間の利活用と沿道店舗との連携をもっと進めるべき。

- ・公共空間を活用した社会実験では沿道店舗の参加があまり見られず効果も少なかった。

(4) まちなかに滞在できる居心地のよい場所が必要

- ・まちなかには、子ども連れが楽しめる場がまちなかにない。
- ・ベンチなど快適に休憩できるスポットがあると滞在できる。

■本町通りエリアビジョン

笑顔で歩いて暮らせる「本町ぐらし」のある通り

本町通りエリアは、かつて真清田神社の参道であり、門前の三八市を発祥として現代の商店街が形成されてきた歴史のある通りです。三八市から始まった本町通り商店街はかつて賑わっていましたが、人々の住まいや生活が郊外に移っていき今は元気がありません。

しかし、今またコンパクトな街が必要とされ、駅周辺の人口は増えつつあり、新しい時代の「街なか暮らし」が必要とされています。それは、通りを歩けば顔見知りになり自然と笑顔で挨拶が交わされるような安心安全な暮らし。一方で、様々な人が集まりいつも新しい出会いや発見が期待できるワクワクする暮らし。それは、以前の商店街が培ってきた賑わい顔の見える街なか暮らしに通じるものです。

また、そんな環境を実現するには、商店街が設置したアーケードの天蓋は天候に左右されず快適に過ごせる貴重な空間資源でもあります。

そんなこれからの時代の街なか暮らし「本町ぐらし」を実現するエリアをめざします。

■本町通りエリアビジョン

(※○数字は4章取組み方針の番号)

【エリアビジョン(目標像)】

【アクション(取組み方針)】

1 店舗の活気が店先にあふれる通りに:①③④⑦

沿道の店舗は、通りから中の様子が伺えるとともに、店先にもサービスがあふれて活気ある街並みをめざします。



>> 店先の歩道空間を日常的に活用できる仕組みづくりと、店舗の魅力発信に取組みます。

2 チャレンジでいつも新しい価値を生み出す通りに:①③④

外からの新たな出店や、若者のチャレンジを積極的に受け止めて、いつも新しい驚きと発見のある通りをめざします。



>> 新たなチャレンジを積極的に受け入れるため、空き店舗の再生や、上記の店先空間を活用した店先チャレンジショップ等を検討します。
また、通り空間でのイベント等、様々な公共空間の利活用を促進します。

■本町通りエリアビジョン

(※○数字は4章取組み方針の番号)

【エリアビジョン(目標像)】

3 歩行者がいつでも安心快適に過ごせる通りに:②⑤

スピードを出す自動車や自転車を心配することなく、小さな子どももお年寄りも安心して歩ける環境をめざします。



4 来街者がアクセスしやすい通りに:⑤

自転車を安全便利で見栄えよく駐輪できる環境づくり、利用しやすい周辺駐車場の確保をめざします。



【アクション(取組み方針)】

>> 自動車や自転車への注意喚起や、通行ルールの再検討等、望ましい交通環境の改善に取り組めます。あわせて必要な通り空間の再編改修も検討します。

>> 便利な快適な駐輪スペースや駐車場の確保に取り組めます。

■本町通りエリアビジョン

(※○数字は4章取組み方針の番号)

【エリアビジョン(目標像)】

【アクション(取組み方針)】

5 だれもが居心地よく過ごせるウォークラブルな通りに:②⑤



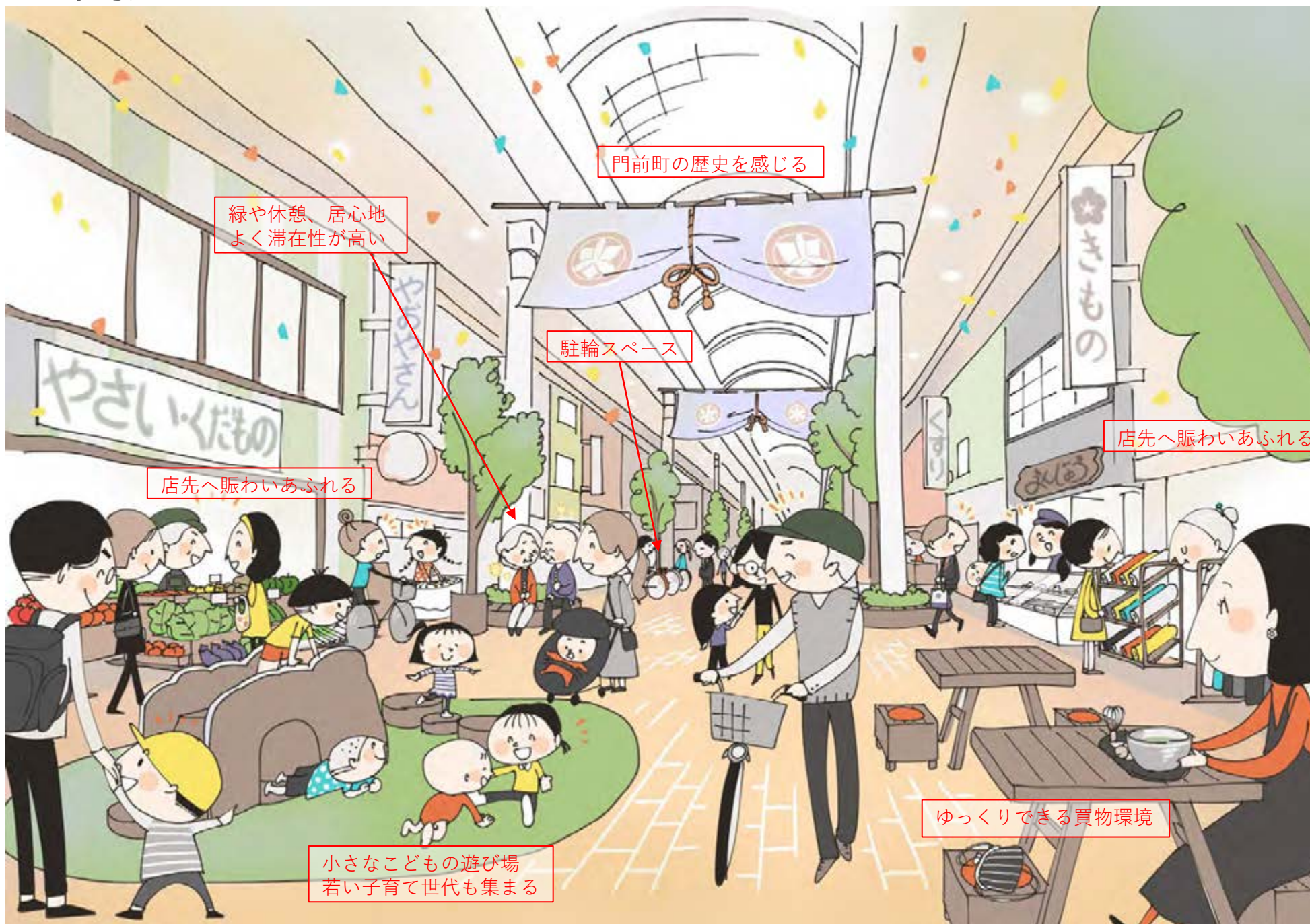
>>ベンチやテーブル等、ちょっとした休憩スペースや遊び場、木質や緑環境などで、居心地よい空間づくりに取組みます。

6 真清田神社の歴史と文化を感じる通りに:②③⑥



>>真清田神社と連携した取組みと、歴史文化を感じる通りの演出を検討します。

■本町通りエリアビジョン イメージ



■銀座通りエリアビジョン

駅から街へ人々を誘い、 一宮の顔となる風格と親しみのある「市民広場Citizen Plaza」通り

銀座通りエリアは、明治時代に鉄道駅ができた駅と真清田神社の参道を結ぶエリアとなり、戦災復興区画整理事業によってラウンドアバウトのある現在の形になり発展してきました。駅やラウンドアバウトのある空間は戦後一宮の発展を象徴するシンボリックな空間として市民の記憶に残る場所となってきました。

一宮市の玄関口である駅から本町通りを経て、真清田神社にいたる“街の顔”となる通り空間として、風格がありシンボリックな空間を目指します。そしてさらに、ヨーロッパの広場のように、日常的に人々が集まり交流する賑わいと親しみのある「市民広場Citizen Plaza」のような通りをします。

■銀座通りエリアビジョン

【エリアビジョン(目標像)】

■一宮の玄関口にふさわしい風格あるシンボリックな通りに:①②③⑥

一宮駅前正面にあってラウンドアバウトなど印象的な景観をもち、本町通りや真清田神社など、まちなかへと人々を誘う玄関口にふさわしい景観や賑わいをめざします。



■店舗の活気が店先にもあふれる通りに:①④⑤⑦

沿道の店舗は、通りから中の様子が伺えるとともに、店先にもサービスがあふれて活気ある街並みをめざします。



(※○数字はビジョン I の取組み方針と対応)

【アクション(取組み方針)】

>> ラウンドアバウトをはじめ、一宮の玄関口にふさわしいシンボリックな通り景観を目指します。

>> 店先の歩道空間を日常的に活用できる仕組みづくりと、店舗の魅力発信に取り組めます。

■銀座通りエリアビジョン

(※○数字はビジョンIの取組み方針と対応)

【エリアビジョン(目標像)】

■チャレンジでいつも新しい価値を生み出す通りに:①④
外からの新たな出店やチャレンジの場を積極的に、いつも新しい驚きと発見のある通りをめざします。



■だれもが居心地よく過ごせるウォーカブルな通りに:②⑤



■一宮のシンボル真清田神社へ駅から誘う通りに:②③⑥
銀座通りから真清田神社を感じさせる演出を工夫し、来街者を一宮駅前から神社へ自然と誘えることをめざします。



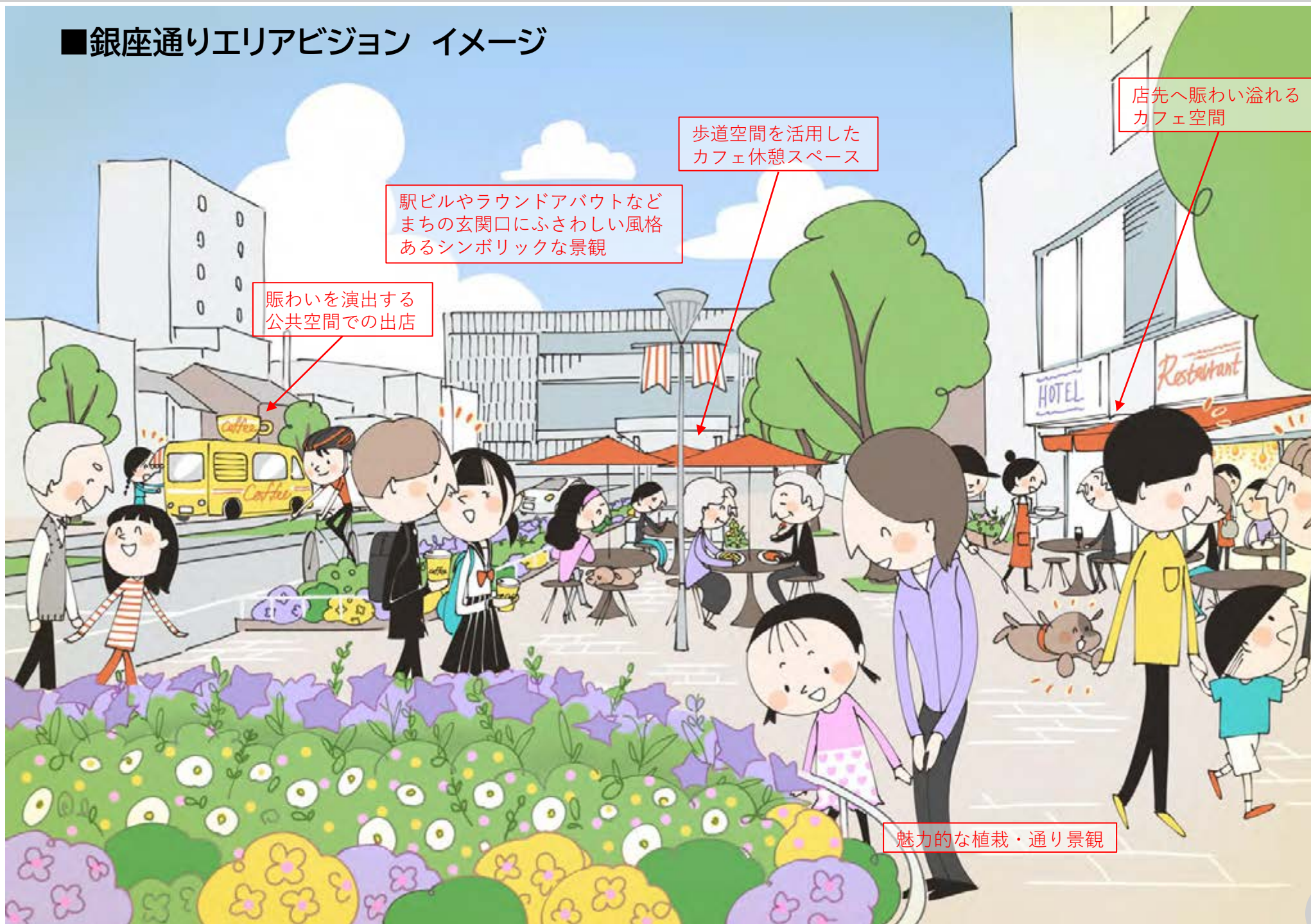
【アクション(取組み方針)】

>> 新たなチャレンジを積極的に受け入れるため、空き店舗の再生や幅広い歩道空間を活かして様々な活用を促進します。

>> 緑地の空間をベンチやテーブルなどを配置して居心地よい空間づくりに取組みます。

>> 真清田神社や本町通りと連携した取組みと通りの演出を検討します。

■銀座通りエリアビジョン イメージ



賑わいを演出する
公共空間での出店

駅ビルやラウンドアバウトなど
まちの玄関口にふさわしい風格
あるシンボリックな景観

歩道空間を活用した
カフェ休憩スペース

店先へ賑わい溢れる
カフェ空間

魅力的な植栽・通り景観

6 実現にむけて

- 取り組み体制と役割分担
- 取り組みの進め方（ロードマップ）

● 取り組み体制と役割分担

プロジェクトチームとしての部会を編成

- 具体的なアクションに取り組むプロジェクトチームとして、一宮まちなか未来会議のなかにいくつかの「部会」編成します。まずは、ワークショップ等で関心の高かったテーマ「公共空間」「地域資源」「情報発信」の3部会を2022年に立ち上げ、さらに国際芸術祭あいち2022開催後を契機に2023年に「アート」部会を立ち上げて、自分たちでできることからアクションを始めています。
- 今後は、取り組むプロジェクトに応じて柔軟に部会を再編成しつつ、アクションを通じて学びながら、市民や行政や企業を巻き込みながら、取り組みを展開していきます。

公共空間

- ・まちなかの公共空間の利活用促進
- ・公共空間にベンチ設置などウォーカブル環境改善
- ・公共空間利活用の手続きの簡素化

まちなかで使える様々な公共的空間（公共空間だけでなく民地を含む）を発掘し、利活用のための手続きや条件などを整理、運用

資源活用

- ・活用できる空き物件のリサーチ、掘り起し
- ・まちなか展開したいプレイヤーのマッチング
- ・資源活用のプラットフォームの形成

まちなかで使いそうな空き地や空き家、その他の空間を調査し、具体的な活用プランやマッチングを検討

情報発信

- ・まちなか歩きマップの作成
- ・ケーブルテレビやコミュニティFMでの情報発信
- ・まちなか情報の発信やプロモーション

まちまちなかに訪れる人の様々な興味に即したテーマ型のマップを作成したうえで、まちなかで展開を行いながら改善する

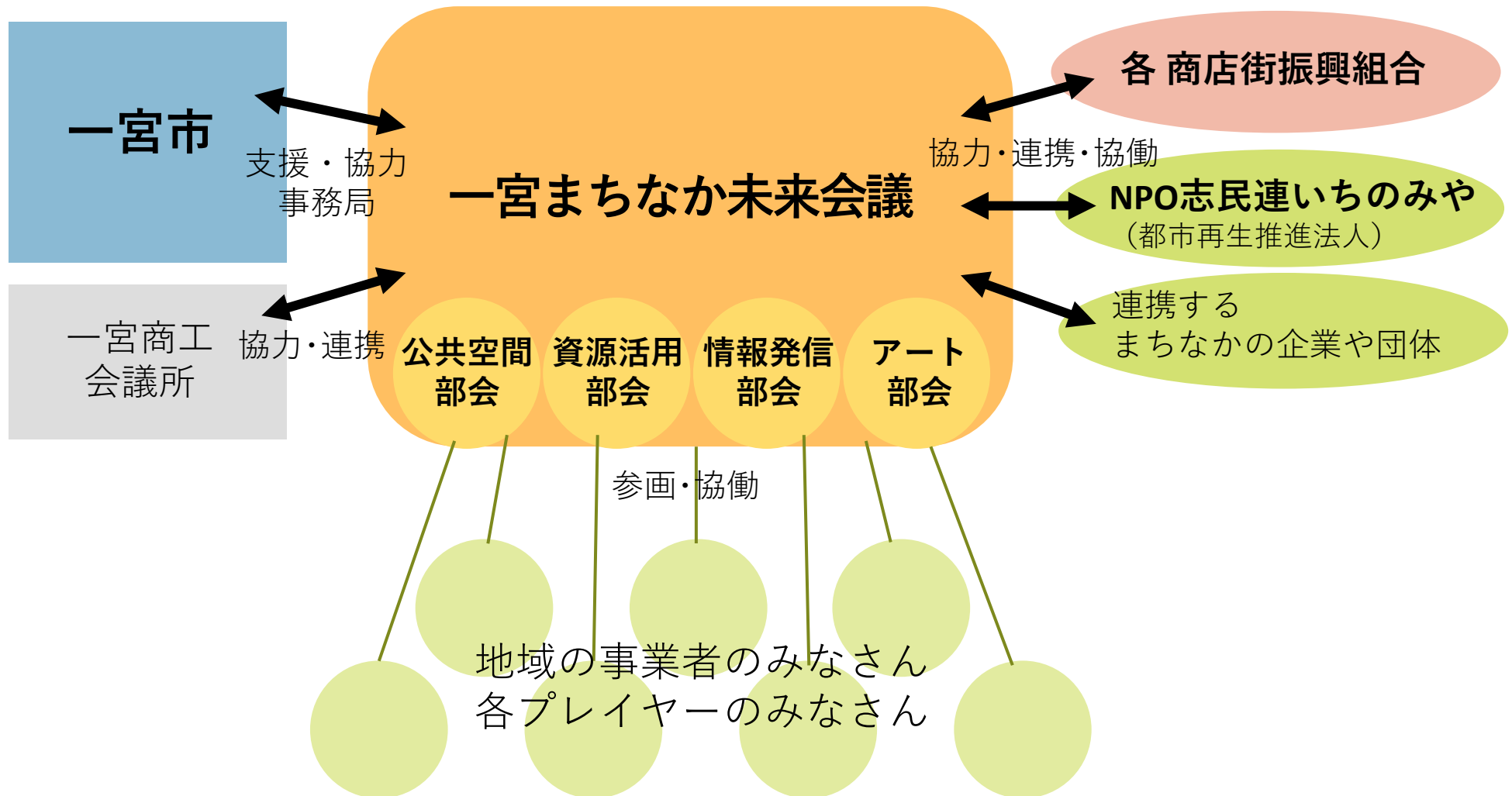
アート

- ・アートによる地域資源の掘り起しと価値化
- ・まちなかアートイベントの企画開催
- ・アートに関心のあるコミュニティの形成

国際芸術祭あいち2022を契機に、まちなかの歴史や空間資源を活用したアートイベントの企画開催

● 取り組み体制と役割分担

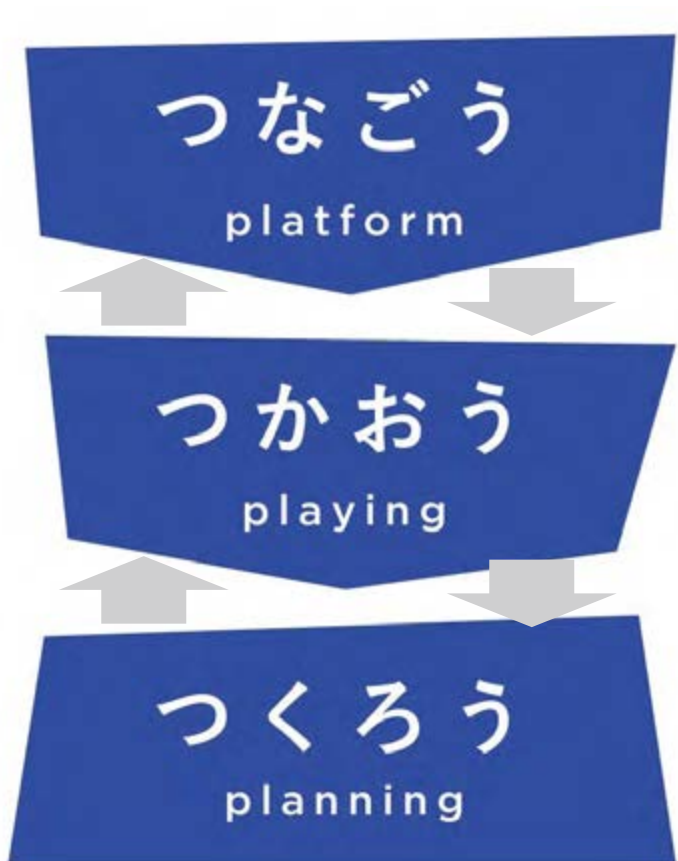
ビジョンの実現にむけては、一宮まちなか未来会議が中心となり、行政、地域団体、まちづくり組織、企業、そして多くのプレイヤーが協力・連携・協働する体制で取り組みます。



取り組みの進め方

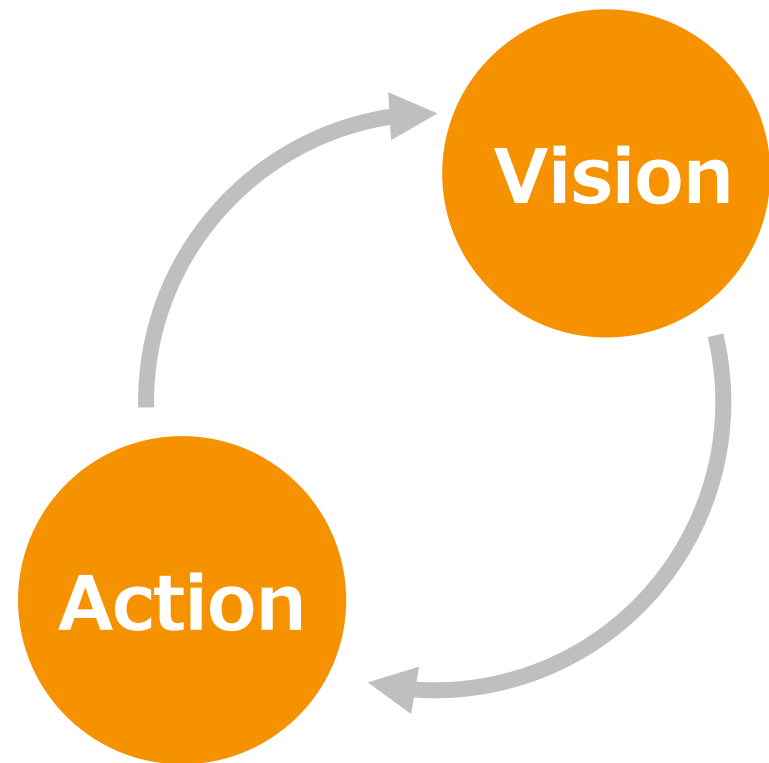
ステップアップしながら取り組む

小さなアクションから少しずつ大きな取り組みへ
様々な人を巻き込みながら 1 つずつ取り組む

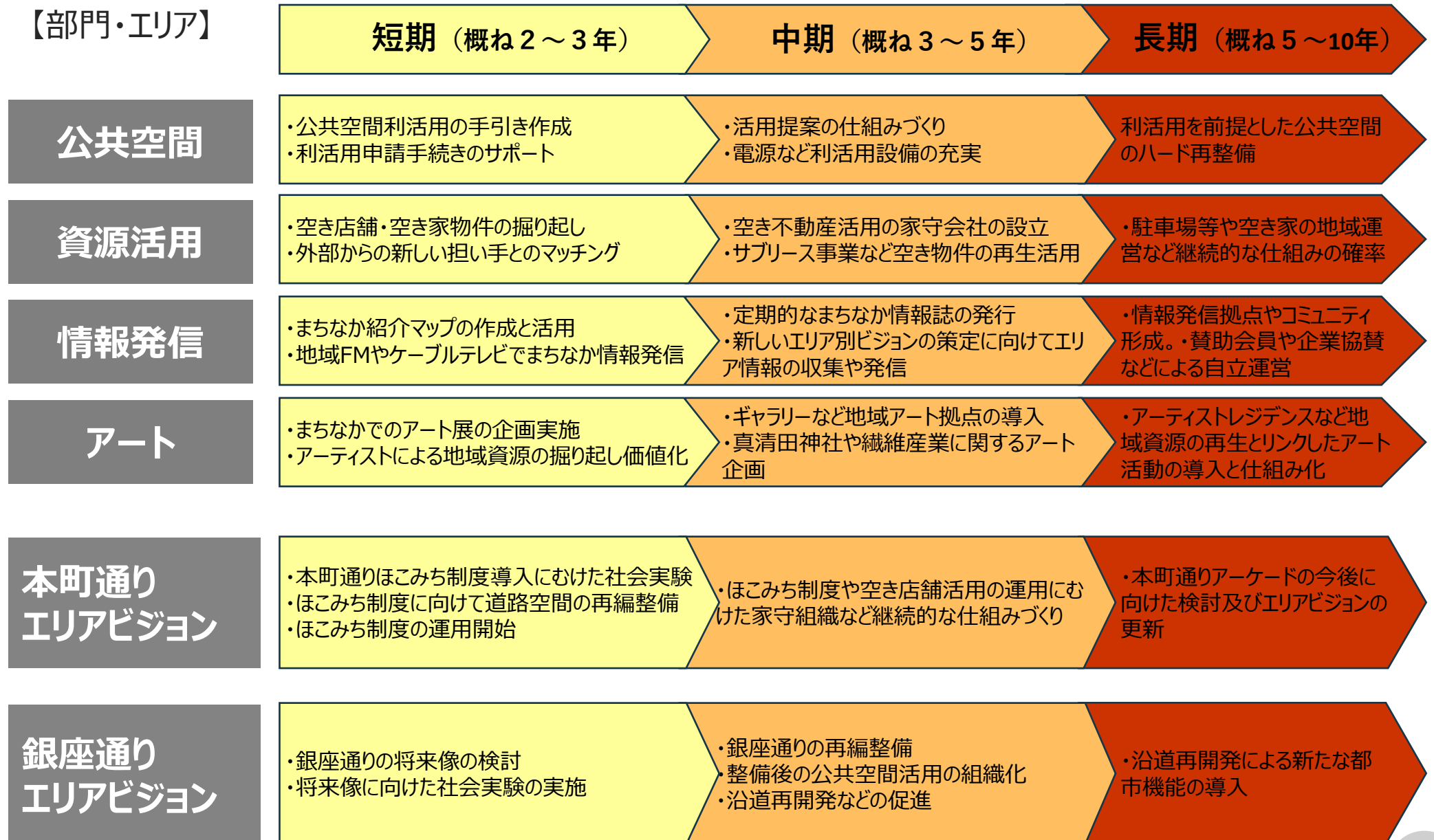


毎年見直ししながら取り組みを進める

活動しながらたえず目指すビジョンを更新し、
新たな展開を生み出しながら取り組みを進める



取り組みの進め方（ロードマップ）



一宮まちなか未来ビジョン

編集・発行：一宮まちなか未来会議

ホームページ <https://machinaka.net/>

メール info.iwsdp@gmail.com